



編集発行者  
千葉大学医学部  
るのほな同窓会報編集部  
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1  
千葉大学医学部内  
るのほな同窓会  
電話 (043) 202-3750  
FAX (043) 202-3753  
e-mail : info@inohana.jp  
HP : https://www.inohana.jp/



千葉大学医学部同窓会報 第187号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

### 会長挨拶

#### 同窓会新役員体制で目指すこと

るのほな同窓会長 吉原俊雄(昭53)



会報187号が発刊され  
会員の皆様のお手元に届く  
9月は、新同窓会役員体制  
がスタートして3ヶ月余り  
が過ぎたところです。

現状ワクチン接種は進ん  
でおりますが、まだ新型コ  
ロナウイルス感染症の終息  
には時間がかかると思いま  
す。千葉大学病院、各地域  
の病院、診療所は様々な局  
面に対応され、現在も同窓  
の多くの先生は多大な努力  
を続けておられます。

本号では同窓会新役員体  
制で目指し取り組んでいる  
ことを述べたいと思います。

・旧医学部棟(私を含め世  
代によつては旧病院と呼称)  
から野球場跡地に建設され  
た新医学部棟への移転によ  
る旧医学部棟閉鎖の件につ  
いてです。同窓会メモリアル  
事業として、現在までです  
に桜のシーズンに合わせての

撮影、館内の撮影、ドロー  
ンの利用、さらに旧医学部  
棟の建設にかかわる歴史を  
含めた記録動画制作が行わ  
れています。Zoomドキュメ  
ンタリー制作のディレクター  
の協力を得て、後生に残る  
医学部歴史編纂となると確  
信しております。2024  
年医学部創設150周年に  
向けて長編versionも想定し  
ております。また、千葉大  
学医学部の沿革、現在まで  
に至る歴史・年表のデジタ  
ル表示については、新医学  
部棟のエントランスに表示  
されることが決定していま  
す。

・同窓会理事の担当部も明  
確化し、より機能的にス  
ピード感を持つて事業が行  
えるように改変、自由な意  
見交換を進めています。

・同窓会と千葉大学医学  
部・附属病院の距離感を縮  
め、協力連携を進めて全国  
に向けて様々発信したいと  
考えています。

・臨床研修制度の変革以降、  
卒業生の他都府県への研修  
や入職に伴い、名簿を見て

も情報がわからなくなつて  
いることも多いのが昨今の  
現状です。個人情報保護法  
に問題ない範囲で勤務先な  
どを確認し、名簿上に補充  
したいと思えます。他大学  
の多くも同様の問題を抱え  
ています。

・医学部学生支援について  
はこれまで白衣式助成、ち  
ばBRC支援、国際交流  
支援、学生活動助成金など  
がありますが、同窓会をよ  
り身近な組織と感じてもら  
うような施策を考えたいと  
思っています。

・同窓会は大学と各地区支  
部との連携がまだ十分では  
ありません。一定の情報共  
有を行っていますが、県に  
よつては人数も少なく支部  
という体制が整っていない  
所もあります。各地域にお  
いて地域医療や行政に活躍  
されている同窓の先生方も  
会報などで紹介出来る形に  
したいと考えております。

今後、同窓会会員の先生  
方には多くのアドバイスを  
頂いたり、ご協力を頂くこ  
とになりますが、その折に  
は何卒よろしくお願い申し  
あげます。

### 特別講演

#### 多分野で活躍する同窓女性医師

令和3年度るのほな同窓  
会総会会場にて、特別講演  
「多分野で活躍する同窓女性  
医師」が開催された。吉原  
俊雄会長が座長となり、大  
川玲子氏、上田真喜子氏、  
三澤園子氏、千先園子氏の  
4名による講演が行われた  
。講演内容は2・3面に掲  
載。



千先園子氏 (平21)

三澤園子氏 (平11)

上田真喜子氏 (昭50)

大川玲子氏 (昭47)

吉原俊雄会長 (昭53)

### 編集委員長

バトンタッチ

三木 隆司(昭63)

平成25年より9年間、る  
のほな同窓会報編集委員長  
を務めさせていただきまし  
たが、この度、編集委員会  
の再編成に伴い、委員長を  
諏訪園靖先生(平6)にバ  
トンタッチいたします。  
会報にご寄稿いただいた  
方々、企画・校正の労を賜  
りました編集委員の先生方  
多くの業務を担っていただ  
いた事務局の方々、そして  
ご愛読いただいた会員の  
方々に深く感謝申し上げます。  
同窓会報の益々の発展  
を願ってやみません。誠に  
ありがとうございました。

### 紙面紹介

会長挨拶	1
特別講演	3
人事異動	3
るのほな同窓会賞	4
就任挨拶	5
地区るのほな会報	6
欧州医学史巡り	12
研修プログラム	13
研修医だより	14
タッチパネル	14
会員から	14
雑文雑談	15
学内情報	16
課外活動団体だより	16
著書紹介	17
編集後記	18
	19

### 特別講演の座長をとめて

るのほな同窓会長



昨年度総会で企画しておりました、4人のシンポジストによる特別講演はコロナ禍による総会中止で延期を余儀なくされました。今年度の総会で同じメンバー、同じ東京の会場で開催できましたことは感慨深いものがあります。さらに同窓会役員および事務局の努力により、会場参加の先生、Web参加の先生合わせますと過去にないほど多数の同窓が集いました。4人のシンポジストは大川玲子先生(昭47)、上田真喜子先生(昭50)、三澤園子先生(平11)、千先園子先生(平21)でいずれの世代の先生も現在目覚ましい活躍をされており、若手そして学生の皆さんにもすばらしい刺激、影響を与えたと確信しています。4人の先生による総合

吉原 俊雄 (昭53)

討論に入る前には、座長のスライドとして会報で紹介された先生や、雑誌等で紹介された先生、学会や海外でも活躍されている先生方を紹介いたしました。卒年順に奥野妙子先生(昭52)、岩川真由美先生(昭53)、道永麻里先生(昭56)、齊藤光江先生(昭59)、出沢真理先生(平元)、加藤里絵先生(平4)、甲賀かをり先生(平8)、古出智子先生(平13)のプロフィールを紹介し、OGの力強さを改めて感じたことと思います。本企画は同窓会新役員体制の船出としてすばらしい後押しとなりました。今後も多くのるのほなOGの先生方の活躍を祈念するとともに、男性陣も負けないようにさらに奮起したいと思えます。

### 女性のセクシュアリティと性暴力被害者支援活動

NPO法人千葉性暴力被害支援センターちさと

理事長 大川 玲子 (昭47)



今年度のるのほな同窓会総会シンポジウムで表題の講演をさせていただいた。

国立病院機構千葉医療センターを定年退職した2013年に、千葉大学の生水真紀夫教授を通し、子どもの心の発達教育研究センター長の清水栄司教授から、性暴力被害者支援のワンストップセンター(2011年内閣府より設置提案)立ち上げのお話をいただいた。産婦人科医として、一貫してセクシュアリティを意識して仕事をしてきた筆者は、最後の仕事として迷わず参加することにした。

性暴力は犯罪として顕在化しにくいことが知られている。内閣府の調査では、1807人の女性のうち、7・8%が異性から無理やり性交された経験があり、

その6割は誰にも相談していない。加害者の属性が交際相手、次で配偶者、職場など面識のある者からの性暴力が3/4を占めることも、潜在化の一因である。警察への相談は数%あるものの、起訴率は低く有罪判決はさらに低い。犯罪調査での二次被害も多く、性犯罪は被害者の責任を問うという稀有な犯罪である。本人も「自分の落ち度」を責めがちで、結果は46%というPTSDの高発症率(自然災害:5%、男性の性暴力被害:65%)に繋がっている。実に性暴力の根は女性蔑視、性暴力を容認する性差別社会にある。

NPO法人千葉性暴力被害支援センターちさと (<http://chissat.sakura.ac.jp>) は2014年に千葉医療センターの協力を得て活動を開始し、現在は内閣府交付金、千葉県、千葉市補助金を受け活動している。週日の電話相談、面接相談などのほか、24時間休

制の緊急支援を約20名の支援員と8名の女性産婦人科医師で行っている。被害直後からの適切な支援がPTSDを防ぐことが知られている一方、過去の被害経験で苦しんでいる相談も増加の一途である。本来のワンストップセンター機能(被害者が必要な支援を1カ所ですぐ得られる)には満たないが、警察等との連携で補完している。民間団体の強みは活動の柔軟性であるが、一方資金不足はいつも課題で、同窓諸氏の応援を得られれば幸いである。

### 多様性と可能性

千葉大学大学院医学研究院 脳神経内科学  
千葉大学医学部附属病院 医師キャリア支援センター  
三澤 園子 (平11)



20年以上、主に大病院で女性医師として働いてきた立場から、後輩の皆さんと先輩の諸先生方に、「多様性」と言う切り口でお話を差し上げたいと思います。

初めに、若手の皆様方にお話しします。人生100年時代が現実になりつつあります。長い人生を楽しく豊かに生きるためには、スキルアップを生継続する心構えでのキャリア形成が必要です。その過程の中で、キャリアを意識して多様化させると言う視点を皆さんにシェアしたいと思えます。誰でもほかの誰かより得意

にしていることがあります。幾つかの得意なことを上手に組み合わせ、自分の総合力を向上させることで、他には代えがたい貴重な人材に成長できる可能性がります。特に女性は、ライフイベントのために、様々な局面で方向転換を迫られることがあります。何かの達人を目指すことができなくなり、挫折感を味わうこともあると思います。その時々で、この「多様性のあるキャリア形成」と言う考え方は、皆さんの可能性を拓きます。しなやかにへこたれずに頑張ってください。次に、先輩の諸先生方にお伝えしたいことは、「組織

NPO 法人 千葉性暴力被害支援センター ちさと  
Chiba Support Center for Sexual Assault (Chissat)

〒260-0042 千葉市中央区精森4-1-2 国立病院機構千葉医療センター  
ホームページ [chissat.sakura.ac.jp](http://chissat.sakura.ac.jp)

ちさとへのご支援をお願いします

お振込先 ゆうちょ銀行 店番 〇一当座0324302  
振替口座 00100-5-324302  
加入者名 NPO千葉暴力被害支援センターちさと  
(領収書 各種ご案内をお送りします)

のマネジメント層における多様性」の可能性です。時代の変化は加速しています。デジタル化や働き方改革などへの備えをしていこうと、新型コロナの大きな津波が押し寄せました。さらに少子高齢化と人口減少の影響がじわじわと迫ります。この変化の速い時代を生き抜くのに必要なのは、高い成長力とリスク・ヘッジ力ではないかと考えます。多様性から生まれる多事論は、イノベーションと成長の原動力であり、様々な角度からのリスクへの対応力になります。性別の違いだけではなく、様々なキャリア経験など、多様な人材は組織のこれからの可能性を拓くのではと考えます。

このたびは同窓会総会の場で、皆さまにお話をいただき、貴重な機会をいただき、ありがとうございます。



### 後輩女性医師の豊かな未来のために ーキャリア形成と子育ての両立ー

森ノ宮医療大学副学長・大阪市立大学名誉教授

上 田 真喜子 (昭50)



私は、昭和50年(1975年)に千葉大学医学部を卒業し、小児科医を経て、その後心臓血管病理学研究所へと進んだ。昭和62年に長男を出産し、院内保育所や地域の保育所に子どもを預け、お世話になりながら仕事を続け、平成10年に大阪市立大学医学部病理学教授となった。私達の世代は、女性医師数が約1割の時代であり、女性医師の出産・育児については「個人の問題」とみなされ、個人の努力で問題解決に当たるしかなかった。しかし、その後、若手女性医師数が3割前後に増加するにともない、女性医師の出産・子育てに関する就労環境の改善と就労システム

の確立が喫緊の課題となってきた。女性医師のキャリア育成を考えた場合、まず、各個人のライフスタイルの多様性を尊重することが重要であることは言うまでもない。しかし、仕事と子育てとの両立をめざす女性医師に対しては、子育て支援システムが必要となる。私は、大阪市立大学医学部教授や大阪府医師会理事の時に、「院内保育」「病児保育」「柔軟な勤務システム」のいわゆる三点セットの整備をめざしたプロジェクトを推進し、その結果、大阪の基幹型臨床研修病院72施設では、この三点セットの整備が著しく向上し、出産・育児が理由で離・退職する女性医師は、ほほいなくなつた。今後は、女性医師の未来に向けて特に重要なことは、医学・医療界における「ジェンダー平等」の確立であろう。女性医師のキャリア形成と昇進に関しては、「男性医師と同一の機会」と「男性医師と同一の評価・待遇」の基本原則が実行されることが

きわめて重要である。千葉大学医学部の後輩女性医師達が、それぞれの選んだ専門分野において順調なキャリア形成ができるように、また子育て時期においても何の不安もなく働き続ける

### キャリアとこれから

ー億総子煩悩社会を目指してー

環境省大臣官房環境保健部環境安全課リスク評価室  
小児保健担当 室長補佐

千 先 園 子 (平21)



平成21年卒の千先園子です。卒後、国立成育医療研究センター小児科研修修了、小児神経発達臨床に従事し、香港大学公衆衛生修士号取得、疫学研究室、シンガポール国立大学新生児発達科で臨床と研究業務に従事し、2019年から厚生労働省で医系技官として勤務しております。産官学を横断的に理解し、橋渡しができる小児科医を目指して勉強しています。

ことができるように、心から願っている。最後に、コロナ禍のなかで、今回のシンポジウム開催にご尽力いただいた同窓会関係者の皆様、事務局の皆様にご心からの感謝の意を表したい。

・課題意識「病院の中で待っているだけでは救えない子もいる」  
小児科臨床の中で、問題の上流である社会的な側面、病院の外にアウトリーチする小児科医も必要ではないかと感じるようになりました。  
・学 公衆衛生の勉強をし、疫学研究室でこどもの近眼予防のためのWearable Device、アプリでの外遊び促進の介入研究や出生コホート研究により社会経済格差は正の施策としての絵本配布プロジェクトの提言等に関わりました。  
・産 スタートアップKids Path

「小児科オンライン」の創業に協力させてもらいました。子育てで誰も孤立しない社会を目指して、遠隔医療相談サービスを行い、ビジネスの力の大きさ、自治体など行政との連携の重要性も感じました。

・官 2019年、成育基本法という関係者約25年の悲願の法律が成立し、感銘を受けました。問題の上流に取り組み新しい小児医療・保健の転換点の好機なのではないと感じ、Evidence Based Policyの観点、子どもと周囲の代弁者としてその理念の実装に貢献したいと志願し入省しました。厚労省母子保健課では成育関連施策の立案、事業運営(CDR、難聴対策等)や研究事業など様々な子ども施策に関わり、環境省ではエコチル調査という10万組の親子の大規模長期出生コホート調査の運営に携わっています。

・キャリアとこれから  
変化が多く、課題も複雑化している今、ハシゴ型だけではなくジャングルジム型のような多様なキャリア観もあってもいいかもしれません、と感じています。振り返ると節目節目ではいつも人とのご縁、出会いが導いてくれたと感謝の気持ち

### 人事異動

- 講師 精神神経科 小田 靖典(平17)
- 他大学教授 国際医療福祉大学成田病院 小児科 藤井 克則(平2)
- 東京女子医科大学 八千代医療センター 消化器内科・化学療法科 新井 誠人(平7)
- 病院長 北里大学病院 高相 晶士(平元)



の は な 同 窓 会 賞

功 勞 賞

『国民病としての高血圧診療への挑戦』

— 希少疾患と言われた原発性アルドステロン症のコモンディージーズへのパラダイムシフト —

横浜労災病院 名誉院長 西川 哲 男 (昭47)



私は千葉大学医学部を昭和47年(1972年)3月に卒業して、学生運動や医局紛争が治まったばかりの第二内科に入局しました。当時赴任されたばかりの熊谷朗教授の元で医師人生を歩み始めたのです。教授の専門分野の一つである内分泌代謝学に興味があり、診療しつつ当初から実験室に出入りし研究の真似事を楽しんでおりました。副腎腫瘍組織を用いた細胞内情報伝達機構とステロイド産生の検討で医学博士を取得後、昭和56年(1981年)7月より昭和58年6月までVisiting FellowとしてNIH、NICHD、Endocrinology and

Reproduction Research Branchにてステロイド合成機構の研究に従事し、当時の吉田尚教授主催の第二内科に帰局しました。その後医局長や学会運営事務局などを勤めながら内分泌研究室に所属し副腎皮質組織を用いた基礎研究を継続しつつ、内分泌疾患を中心に臨床に従事しました。平成3年(1991年)4月、新設された横浜労災病院へ内科部長として転出しました。初めての大学以外の病院勤務です。650床を擁する横浜市域中核施設で、脳・心血管系疾患を中心に急性期医療を提供する39番目の都会型労災病院です。当然ながら臨床の毎日ですが、1995~1999年の5年間に内科外来を受診した未治療高血圧1020症例を対象に内分泌性高血圧の頻度を明らかにする疫学的前向き試験を実施

しました。新設病院ならではの、千載一遇の臨床研究の好機であり、この研究が今回の受賞対象テーマとなります。すなわち、副腎病変の局在診断に、ACTH負荷選択的副腎静脈サンプリングによる機能的診断方法を開発し、病変を摘出し内分泌機能が正常化したことを確認するとともに、病理検査によりアルドステロン産生腺腫と確定診断する一連の診療手順を確立しました。その結果、原発性アルドステロン症(PA)が高血圧患者の6%を占めている事を本邦で初めて報告しました。その当時EBMという概念もなく疫学研究は皆無に近い時代でした。病院内研究室では細胞実験系を確立し、国内外で共同研究を推進し、副腎組織遺伝子解析、酵素免疫解析さらにはステロイドの可視化など病態解明を世界に先駆けて行ってきました。現在でも、低カリウム血症の有無でPAをスクリーニングされていますが、誤診の元です。血圧は下げれば事足りるという一般常識を覆し、根本原因の検索と心血管系リスク回避への対策を明確化することが出来るようになりました。2009年には、私が責任者となって日本内分泌学会より

原発性アルドステロン症診断・治療ガイドラインを策定することができました。2020年の欧米での報告ではPA頻度は高血圧の10~25%を占める見逃された疾患群とされ、特に脳卒中や心不全、慢性腎臓病の主因と考えられており、見逃してはならない病態と位置付けられています。受賞の御礼と挨拶の代わりに、高血圧診療では全例を対象とした低レニン性高アルドステロン血症のスクリーニングを是非とも行って欲しいと念じております。最後に、長年苦楽を共にして国内外の学会・研究会にも一緒に参加し、世界と対峙し真夜中まで研究を継続し論文にまとめてくれた、第二内科出身の同門の大村昌夫先生、斎藤淳先生、松澤陽子先生、鶴谷悠也先生並びに千葉大学、横浜市立大学、東京大学からの後期研修医(多くは米国で現在修行中)の仲間がいることを記します。そして今般推薦状を書いてくださった三木隆司教授も横浜労災病院で素晴らしい活躍をしてくれた時代があります。先生にも心から感謝いたします。熊谷朗先生から頂いた研究テーマが受賞対象になり、やっと恩返しができました。

原発性アルドステロン症診断・治療ガイドラインを策定することができました。2020年の欧米での報告ではPA頻度は高血圧の10~25%を占める見逃された疾患群とされ、特に脳卒中や心不全、慢性腎臓病の主因と考えられており、見逃してはならない病態と位置付けられています。受賞の御礼と挨拶の代わりに、高血圧診療では全例を対象とした低レニン性高アルドステロン血症のスクリーニングを是非とも行って欲しいと念じております。最後に、長年苦楽を共にして国内外の学会・研究会にも一緒に参加し、世界と対峙し真夜中まで研究を継続し論文にまとめてくれた、第二内科出身の同門の大村昌夫先生、斎藤淳先生、松澤陽子先生、鶴谷悠也先生並びに千葉大学、横浜市立大学、東京大学からの後期研修医(多くは米国で現在修行中)の仲間がいることを記します。そして今般推薦状を書いてくださった三木隆司教授も横浜労災病院で素晴らしい活躍をしてくれた時代があります。先生にも心から感謝いたします。熊谷朗先生から頂いた研究テーマが受賞対象になり、やっと恩返しができました。

の は な 同 窓 会 賞 受 賞 候 補 者 募 集 要 項

第二七回(二〇二二年度)の は な 同 窓 会 賞 の 受 賞 候 補 者 を 左 記 に よ り 募 集 いたします。

- 一、受賞対象者
  - ① 社会貢献賞 本会員で、医療活動の顕著な業績により、社会に高い貢献をした個人またはグループ。
- ② 功 勞 賞 医学および広く文化の各領域において、千葉大学および千葉大学の個人またはグループ。
- 二、表彰
  - ① 社会貢献賞 (三件以内) 盾および賞金(総額三十万円以内)を贈呈します。
  - ② 功 勞 賞 (一件以内) 盾および賞金十万円を贈呈します。
- 三、応募方法 所定の申請用紙により、二〇二二年十二月一日から二〇二二年一月三十一日までに申請して下さい。
- 四、受賞者の決定 選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。審査結果は二〇二二年五月中旬までに各申請者に通知すると共に、の は な 同 窓 会 報 に 掲 載 し ます。
- 五、問い合わせおよび申請用紙請求先 千葉大学医学部内、の は な 同 窓 会 事 務 室 申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

校 友 会 総 会

令和3年度千葉大学校友会総会は新型コロナウイルス感染症拡大が続いていることから、10月中旬を目途に「書面審議」にて行います。

ホームカミングデー 2021 Web開催!

令和3年11月6日(土) 特設サイトOPEN予定

- \* 挨拶 学 長 中山 俊憲
  - \* 特別講演 病院長 横手幸太郎
- 新しい亥鼻キャンパスの動画なども予定しています。皆様ぜひご視聴ください!

千葉大学校友会 検索 ※詳しくはHPをご確認ください

校友会事務局 koyukai@office.chiba-u.jp 043-290-2014

# 就 任 挨拶

## 千葉大学大学院医学研究院

小児病態学 教授

濱 田 洋 通 (平2)



令和3年(2021年)

4月1日付で、千葉大学大学院医学研究院小児病態学の教授を拝命いたしました。これまで、同窓、あのはな同窓会ならびに千葉大学の多くの先生方には格別のご指導、ご支援を賜って参りました。心より御礼申し上げます。

私は中島博徳教授の最終講義を聴いた学年です。卒業直ちに新美仁男教授の主宰する千葉大小児科学教室に入局し循環器領域に進みました。子どもの肺高血圧症の病態解析で河野陽一教授に学位指導頂き、2001年ポスドクとして高次機能発生生物学(古関明彦教授、青江知彦准教授)で分子生物学を中心に学び、2004年からタフツ大循

環器内科(ポストン)で心血管再生のトランスレーショナルリサーチに関わる機会を得ました。約10年にわたる心血管の基礎・臨床研究のキャリアは私の大学人としての礎となっております。

2007年に帰国後、千葉大小児科時代の指導医、寺井勝先生が赴任された東京女子医科大学八千代医療センターで、小児救急医療を中心に広く経験を積みました。センターは高梨潤一第2代教授(同門)のもと若手医師が集い、今年千葉県初の小児救命救急センターに成長しています。

女子医大では小児の血管炎である川崎病の治療として免疫抑制薬の適応開発に取り組みました。千葉大公衆衛生学羽田明教授、同臨床試験部花岡英紀教授が中心となって行なった小児の医師主導治験で、私は実働部隊として試験を牽引しました。2019年、羽田教授の最終講義にあわせて成

果はLancet誌に公表され、2020年に適応取得に至りました。国際的な仕事を多く頂き、現在、アジアの川崎病診療医・研究者でネットワークを作った活動しています。アジアに多い川崎病の、アジア発の研究成果を発信してゆきます。

2020年以降、COVID-19をきっかけとして、小児医療に劇的な変化が起きています。疾病構造の変化、災害や社会隔離による子どものこころの問題、発達障害と表裏である小児虐待や家族支援、貧富の差の拡大により影響を受ける子どもたち等、今後続くであろう小児医療の大変革の元年であります。少子化の進む中、どういう小児医療が必要とされているか、小児科医の歩むべき方向を議論し、示し、実践してゆきたいと思っています。

病院玄関ホールの小児科の看板には「子ども達の味方です」と標榜させていたできました。広い間口の、専門横断的な小児医療を展開します。その中で、目の前の患者さんから得たクリニカルエッセンスをもとにした研究を指導し、臨床オリエンテッドな教室を発展させ、千葉発の小児医学の成果を世界に発信したい

と考えています。学生や研修医には常に子どもの全身を見るよう指導しています。人は全身が連関して発達します。研修修了時に、そういうことを実感できるような教育をめざしています。千葉県内で将来の小児医療を担う人材は確実に育ってきています。彼らが一丸となり連携できるような環境作りを力を尽

## 千葉大学大学院医学研究院

実験免疫学 教授

木 村 元 子 (東京理大・平9)



令和3年(2021年)

くしたいと思っています。同窓の先生方、若き小児医療者達を暖かくご指導ご支援いただきたいと思えます。103年の伝統ある小児病態学教室、そして千葉大学、小児医学・医療に貢献すべく全力を尽くす所存であります。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願いいたします。

4月1日付で、千葉大学大学院医学研究院実験免疫学の教授を拝命いたしました。これまで、あのはな同窓会の諸先生方ならびに千葉大学の多くの先生方には格別のご指導、ご支援を賜って参りました。この紙面をお借りしまして、心より御礼申し上げます。私は東京理科大学3年生の時に、世界的な免疫学者である多田富雄先生(千葉

礎研究をもとにした臨床への応用研究について学ぶ機会を得られたことは大変幸運でした。その後2006年より米国国立衛生研究所NIHのAlfred SINGER先生のもとで「免疫学的な自己・非自己の確立」「胸腺内におけるT細胞の選択と分化の仕組み」といった、生命現象の根元に関わる基礎免疫学研究課題に取り組みました。Singer先生には「生命現象に対して真摯に向き合う大切さ」「Scienceを行う上での哲学の大切さ」を叩き込まれました。留学中に得られた知識や経験は、現在、免疫応答や免疫関連疾患をより深く理解するための助けとなるだけでなく、私の研究者としての基本姿勢の礎となっております。

千葉大学大学院医学研究科の博士課程へと進学し、谷口克先生(前千葉大学医学部長)、中山先生をはじめ、徳久剛史先生(前千葉大学学長)、齋藤隆先生(千葉大学名誉教授、古関明彦先生(現細胞分子医学教授)のご指導を受け、博士号を取得しました。千葉大学の最先端の研究環境と一流の研究者的ご指導のもと、細胞生物学的手法、疾患モデルマウス、基

2014年に帰国し、千葉大学大学院医学研究院にて「重要な生命現象の仕組みを明らかにする基礎医学研究」と「基礎研究の成果に基づいた応用研究」の2つを大きな柱として研究を行っております。なかでも中山先生のご指導のもと、2016年に提唱した、活性化T細胞が炎症組織内に浸潤、維持されるための新しい細胞動態モデル「CD69-Mycシグナル」に関する成果は、現在、多くの臨床

系研究領域の先生との共同研究に発展しました。これもひとえに多くの先生のご尽力・サポートの賜物であり、改めて御礼申し上げます。私はこれまで、新たな生命現象の発見を目指し基礎免疫学分野で研鑽を積んで参りました。今後も、生命現象の本質に関わる事象の発見を目指し、基礎免疫学研究を継続するとともに、基礎研究の成果をもとにした治療学研究、疾患制御研究への展開も目指していきたいと思えます。

実験免疫学教室は、1964年に新設された農山村医学研究施設に端を発し、1988年の高次機能制御センター開設時に生体情報学分野へ改組され、徳久先生が長年運営されていた分子制御学教室の流れを汲む教室です。歴代の先生が築き上げてきた基礎研究の伝統を引き継ぐとともに、さらなる発展を目指して参りたいと存じます。私の好きな言葉の1つに「Happiness lies in the joy of achievement, and the thrill of creative efforts.」があります。地道な努力の中でワクワクとした気持ち忘れずに、千葉大学医学部のさらなる発展に少しでも貢献できるよう微力ながら全力

成果は、現在、多くの臨床

を尽くしていく所存です。るのほな同窓会の先生方におかれましては、今後とも

### 千葉県立保健医療大学 学長に就任して

龍野 一郎 (昭57)



に根差した保健・医療・福祉の連携拠点としてのシンクタンク機能の整備が求められております。

令和3年(2021年)4月1日付けで千葉県立保健医療大学長を拝命いたしました。千葉県立保健医療大学は2009年に千葉県立衛生短期大学、千葉県医療技術大学校を再編整備し、看護学科・栄養学科・歯科衛生学科・リハビリテーション学科(理学療法専攻)からなる4年制の県立大学とした開学しました。初代学長は山浦晶先生(元医学部附属病院院長)、第二代学長は田邊政裕先生(元副学部長)が務められ、私が第三代学長となる比較的若い大学です。我が大学には千葉県における健康長寿社会の創造に寄与する保健医療専門職の育成とともに、千葉県の保健医療政策に必要な地域

ご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。さて、私は昭和57年(1982年)に千葉大学を卒業し、故熊谷朗教授が主催されておりました旧第二内科に入局させていただきました。その後、熊谷先生は富山医科薬科大学副学長に転出され、後任として故吉田尚教授が自治医科大学から赴任されております。私は旧第二内科の基本方針である General physician 育成の理念に従い松戸市立病院での一般臨床研修を終え、田村泰先生の下で内分泌代謝学の研究に入っております。その後、1989年から米国チューレン大学の故有村章教授の下で、3年半にわたって神経内分泌・神経科学の研究に従事させていただきました。帰国後は神経内分泌から骨代謝・副腎疾患まで細胞内情報伝達機構の観点から内分泌代謝学の幅

広い分野に視野を広げ研究に専心させて頂いております。その後、1994年齋藤康教授が山形大学から戻られ、講座を主宰され、私は1998年に平井愛山先生の後任として、内分泌研究室をお預かりし、講師に昇任し、医局長も務めさせて頂いていただきました。このころは新臨床研修制度スタート前後で関連病院の先生方には大変なご迷惑をおかけしました。2005年に齋藤先生の附属病院長就任に伴い糖尿病代謝内分泌内科の科長をお預かりし、助教授に昇任、2007年から准教授を務めさせて頂いておられます。2008年には齋藤先生が千葉大学長に就任され、私は学長選挙事務局長として学内外の諸先生方にご大変お世話になりました。そして、2011年に東邦大学に移り、医療センター佐倉病棟の糖尿病内分泌代謝センター教授に就任、その後、佐倉内科講座の主任教授、院長補佐(安全管理担当)等を経て、副院長(教育担当)を務めておりました。本年3月一杯で同職を辞し、千葉県立保健医療大学長に就任しました。東邦大学時代には齋藤康先生、私の前任教授であ

られた白井厚治先生のご指導をいただき、肥満外科治療(減量・代謝改善手術)を含めた統合的な肥満症治療に取り組み、現在も日本肥満症治療学会の理事長を務めさせて頂いております。この減量・代謝改善手術は臨床応用が進み、この3月には日本糖尿病学会・日本肥満学会とともに3学会合同で新たなガイドライン「日本人の肥満2型糖尿病に対する減量・代謝改善手術の3学会のコンセンサスステートメント」を作成公表させて頂きました。今後は学長として、千葉大学とも連携させていただき、将来の健康長寿社会の創造に寄与できる保健医療専門職を育成するとともに、千葉県の保健医療政策に求められる地域に根差した保健・医療・福祉の連携拠点として大学の体制を整備し、県民の健康に貢献していく所存です。引き続きご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。



## 千葉県るのほな会 令和2年3月 第20号

千葉県るのほな会誌  
特集 千葉県の医療の将来像  
Vol. 20 No. 1 2020年(令和2年)3月号

目次

巻頭語	龍野 一郎 (昭57)	1
Essay		
基礎医学に魅せられて	龍野 一郎 (昭57)	2
21世紀を拓いて！同窓会とは？あなたや？どうあるべきか？	中村 謙人 (昭54)	5
スポーツメディスンセンター 初年度の活動報告	南本龍一 (昭46)	9
船体の前身：トワイアスロンのメモ	大西隆一郎 (昭17)	9
若手基礎研究者のリレーエッセイ	五島 悠介 (昭39)	13
特集「千葉県の医療の将来像」		
千葉大との連携で10年目を迎えた「千葉市を日本のシアトルに」構想	中村 謙人 (昭54)	17
医療政策から読み解く今後の医療「三位一体改革」と現場への影響は？	吉村 健佑 (昭10)	19
雑感		
悔に任む	三枝みず子 (昭32)	25
愛知の花	神田たかし (昭35)	25
東洋		
東本誠一先生(昭22)の稼業	龍野 一郎 (昭50)	26
『乱世を医やす人・南本龍一』	龍野 一郎 (昭50)	27
報告		
「次世代リーダー育成海外留学奨学生」制度展開と第4期奨学生の活動報告	龍野 一郎 (昭50)・吉村 健佑 (昭10)・千葉県るのほな会理事	28
第4期次世代リーダー報告書	スティーブ会東海衛生大学院 奨学報告 (医学部6年)	29
第17回卒業生を祝して	土橋 正典 (医学部3年)	30
るのほな同窓会「ホームカミング・フォーラム2019」を開催されました	吉村 健佑 (昭10)・三津 潤子 (昭11)・有村 謙輔 (昭16)	33
令和元年年度報告	龍野 一郎 (昭50)・高橋 勇夫 (医学部6年)	35
令和元年年度報告	龍野 一郎 (昭50)・高橋 勇夫 (昭11)	35
2020年度総会案内		36
平成30年度千葉県るのほな会事業報告・会計報告		39
令和元年年度 千葉県るのほな会年会費納入者名簿		42
千葉県るのほな会会則		46
編集後記・投稿規定		47

表紙  
「ふじエーブ市内 仏南東部」  
山口 宗雄 (昭58)

### 金沢医科大学

神経内科学 主任教授

朝比奈 正 人 (滋賀医大・昭62)



2021年4月1日付で金沢医科大学に赴任した朝比奈正人です。

私は1987年に滋賀医科大学を卒業し、平山恵造先生が主宰する千葉大学神経内科に入局しました。早く一人前の臨床家になるために神経症候学を習得したいと考え、神経症候学の大家である平山先生の教えを請うことにしました。滋賀医科大学の先輩で千葉大学神経内科に入局していた上司郁男先生(現済生会習志野病院副院長)のお誘いも大きかったです。神経症候学については平山先生に教授回診などで細やかで奥深い指導をいただきました。

小脳性運動失調の患者では上肢の回内回外運動で肘固定が不良になります。筋直性ジストロフィでも拮抗筋の弛緩が不十分で肘固定の不良がみられるという

発表をして褒められたのが良い思い出です。成田赤十字病院に勤務しながら、平山先生の下で篠遠仁講師(現脳神経内科千葉所長)の指導を受け、1995年にP.E.T.を用いたParkinson病

脳のアセチルコリンイメージの研究で学位を取得しました。その後、山田達夫講師(福岡大学神経内科前教授)にAlzheimer病やParkinson病の免疫組織染色や分子生物学的手法を用いた研究の指導を受けました。

次に千葉大学神経内科教授に就任された服部孝道先生から自律神経の研究をするように指示され、1997年10月に助手として千葉大学に戻りました。研究は手探りで、なかなか進みませんでした。転機となったのは2002年に神経研究の聖地と言われるQueen Square (London大学)の医療施設・医学研究機関群の通称)の教授で自律神経研究の世界的権威であるMathias先生の自律神経研究室への留学でした。こ

で多系統萎縮症、純粋自律神経不全症などの自律神経疾患や自律神経検査学の研究を行い、帰国後は対象疾患をParkinson病、認知症、末梢神経疾患などに広げました。

2008年に千葉大学神経内科教授に就任された桑原聡先生の下でも自律神経研究を続けました。2014年に特任教授として東千葉メディカルセンターに赴任し、病院の立ち上げに関わりました。2016年から服部孝道名誉教授が運営する医療法人で脳神経内科専門クリニック(脳神経内科津田沼)の運営を担当し、この頃から慶應義塾大学心理学教授の梅田聡先生と心理学的指標として自律神経活動を応用する研究を始めました。

### 自治医科大学

内科学講座消化器内科学部門 教授

森 本 直 樹 (平3)



このたび、令和3年(2021年)4月1日付で、自治医科大学内科学講座消化器内科学部門の教授を拝命いたしました。

私は平成3年(1991年)に千葉大学医学部を卒業後、大藤正雄教授の主宰する第一内科に入局致しました。同期入局は21人おり、大変活気のある大学での研修医生活の後、沼津市立病院で初期研修を行いました。大変忙しい日々でしたが、素晴らしい指導医、仲間、そして美味しい海の幸に囲まれて過ごした当時の学びが、私の医師としての基礎となっています。多くの肝疾患症例を経験し、多岐にわたる消化器疾患の中でも特に肝疾患に深く興味をもち、千葉大学大学院に進学。江原正明先生(昭49)のもと、当時放射線医学研究所におられた加藤博

敏先生(金沢大・昭59)にご指導いただき、放射線肝障害領域の早期画像描出についての基礎研究を行いました。大学院を卒業後、千葉大学関連病院であった栃木県の下都賀総合病院(現とちぎメディカルセンターしもつが)に赴任し、消化器内科医としての臨床経験を積んだのち、平成14年(2002年)に、同年開院予定の静岡県立静岡がんセンターに開設スタッフとして加わりました。開院準備から始まり、肝細胞癌治療の他、画像診断医として多くのがん診療に関わり、また臨床研究の考え方や身ををもって学んだ有意義な期間でした。その後、医局人事にて再び前任の下都賀総合病院に赴任。がんセンターでの経験も活かしながらも楽しい臨床生活を送っておりましたが、地域中核病院での診療を続けるにあたり、診断治療の細分化高度化が進む中、近隣大学とのより密な連携の必要性を強く感じ、また自らの先進医療や後進教育などへ

の興味も高まって、平成25年(2013年)縁あって自治医科大学消化器内科に入職を致しました。自治医科大学では主として肝疾患領域の臨床・研究・教育を担当し、肝細胞癌に対する低侵襲局所凝固療法や全身化学療法、慢性肝疾患治療などの臨床研究を中心に行ってきたいます。

こうして振り返りますと、人生の岐路にてたびたびご助言をいただきました杉浦信之先生(昭54)をはじめ、多くの方々と出会い、お力添え、時に叱咤激励をいただき、今こうして自分があることを強く感じます。静岡がんセンターなど千葉大の影響の傘の外と思われる状況におきましても、古川敬芳先生(昭57)や千葉大の先輩後輩の先生に支えて

いただいた大変強く感じました。卒後22年で臨床畑からアカデミアへ飛び込んだ際にも、栃木県に多くおられるのは同窓会の先生方にご支援をいただき、学内でも川平洋先生(平4)ほか同窓の先生方にお世話になり今日があります。なのは同窓会の繋がりの強さを改めて感じるとともに、日頃よりのご指導ご支援に心より感謝申し上げます。今後も臨床・研究に自ら研鑽を続けるとともに、若い先生達に基礎研究、臨床研究の重要性、楽しさを伝え指導をしながら、肝疾患診療、消化器診療の進展に少しでも貢献して参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

の興味も高まって、平成25年(2013年)縁あって自治医科大学消化器内科に入職を致しました。自治医科大学では主として肝疾患領域の臨床・研究・教育を担当し、肝細胞癌に対する低侵襲局所凝固療法や全身化学療法、慢性肝疾患治療などの臨床研究を中心に行ってきたいます。

こうして振り返りますと、人生の岐路にてたびたびご助言をいただきました杉浦信之先生(昭54)をはじめ、多くの方々と出会い、お力添え、時に叱咤激励をいただき、今こうして自分があることを強く感じます。静岡がんセンターなど千葉大の影響の傘の外と思われる状況におきましても、古川敬芳先生(昭57)や千葉大の先輩後輩の先生に支えて

叙勲、褒章その他祝事に関係されたい方は是非同窓会事務室までご一報下さい。編集部でも絶えず注意しておりますが、ニュースに接し得ない事態もあります。お喜びはなるべく早く、同窓の皆様にもお分けしたいと思っておりますのでよろしくお願ひ申し上げます。

### 東京女子医科大学八千代医療センター 消化器内科・化学療法科(兼務) 教授

新井 誠 人(平7)



このたび、令和3年(2021年)4月1日付で東京女子医科大学八千代医療センター消化器内科・化学療法科(兼務)教授を拝命いたしました。るのほな同窓会の先生方をはじめ多くの方々からご支援を賜り心より感謝申し上げます。

私は、平成7年に千葉大学医学部を卒業後、内科でありながら様々な手技をもつて患者さんの治療に向かう消化器内科医に憧れて、税所宏光先生(千葉大学名誉教授)が後に主宰される千葉大学第一内科(現、消化器内科)に入局しました。平成8年から水戸済生会総合病院で3年間、平成11年から住友重機械工業健康保険組合浦賀病院で1年間、消化器内科医としての研修を受けました。いずれの病院でも指導者の先生に恵まれ、臨床医としての基

礎を築くことができました。平成12年に帰局し、横須賀收先生(千葉大学名誉教授)が主宰される第2研究室で、肝炎、肝不全の臨床と、分子生物学的手法を用いた基礎研究を行いました。平成13年から、小保政男先生(東京大学名誉教授)にご紹介頂き、株式会社ヘリックス研究所でマイクロアレイを用いた遺伝子発現解析を学ぶ機会を得ました。遺伝子発現解析の手技を用いて、肝再生や発がんのメカニズムの解明を目指し、マウスの肝再生時における経時的な遺伝子発現変化を解析し、学位を頂きました。基礎研究の基本をこの第2研究室で学ぶことができました。平成15年から社会保険船橋中央病院に向向し、平成16年からは21世紀の〇〇プログラム特任助教として再び千葉大学で研究を継続いたしました。平成19年に横須賀收先生が千葉大学消化器内科教授となられ、肝炎、肝不全などのこれまでの診療に加えて、消化管グループ長として、消化管疾患の

臨床、研究も担うことになりました。消化管グループは、非常にやる気のある若い先生方に数多く参加いただき、活気あふれる診療グループになりました。平成23年より文部科学省高等教育局医学教育課に技術参与として1年間勤務いたしました。医学教育課は全国の医療系の教育機関を管轄する課であり、医学教育に関する行政の現場を経験しました。平成29年より滝口裕一教授が主宰される腫瘍内科に異動となり、臓器を問わない化学療法を担当し、抗がん薬の急速な進歩に驚きながらも、各診療科の先生方の協力を得て、安全かつ有効な化学療法の遂行ができました。また、がん遺伝子パネル検査の立ち上げをお手伝いいたしました。滝口先生、消化器内科の加藤直也教授にご推挙頂き、八千代医療センターに赴任することになりました。こちらでの役職は、広く深く臨床を行ってきた消化器疾患の診療を継続し、また腫瘍内科での経験も活かすことができ、私にとっては非常に恵まれたものです。当院は、関根康雄副院長(呼吸器外科)、高梨潤一副院長(神経小児科)を始め、多くのるのほな同窓会の先

生方が活躍されており、皆様のご協力を得ながら、地域医療を担いつつ、大学病院としての研究、教育も進んでいます。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

### 新潟大学脳研究所附属 統合脳機能研究センター

臨床機能脳神経学分野 教授

島田 斉(平15)



このたび令和3年(2021年)4月1日付で、新潟大学脳研究所附属統合脳機能研究センター 臨床機能脳神経学分野の教授を拝命しました。

私は2003年に千葉大学医学部を卒業し、卒後は脳神経内科の医局へ入局いたしました。臨床医としての研鑽を積む中で、現在の医学では診断・治療が困難な患者さんにより良い医療を提供するためには、臨床医としての経験を重ねるだけではなく、研究医としての視点を持った自己研鑽が不可欠であると考え、2005年より大学院に進学し、放射線医学総合研究所(放射線 現量子科学技術研究

を開発機構)におけるPETを用いた神経変性疾患の病態研究を開始し、大学院卒業後も放医研での画像研究を続けてまいりました。放医研は多くの独自PET/CTガンダの開発ならびにそれらを活用した基礎ならびに臨床研究を行っている、世界に伍する屈指のイメージング研究を行っている研究所です。放医研で行った研究では、国際的なトップランナーである研究者たちと競争をする貴重な経験を積むことが出来ました。特に世界に先駆けて多様な神経変性疾患における脳内タウ病変を生体内で可視化する独自のPET技術開発を行った研究では、国際アルツハイマー病学会の画像コンソーシアムにおける年間最高論文賞を受賞し、さらに一連の研究成果に対して千葉医学会賞を受賞する栄誉にもあずかりました。

振り返ると多くの人との良縁に恵まれました。大学院への入学に際して放医研でのPET研究を行うことをお許しいただいた服部孝道先生、現在に至るまで良き研究の指導者であり良き共同研究者である篠遠仁先生および平野成樹先生、素晴らしい研究環境を整え長きにわたり研究活動を支援して頂いた放医研の須原哲也先生と樋口真人先生、大学院卒業後も好き勝手の研究活動を行い、今回千葉の地を離れて新潟へ異動する放医研局員である私に、半ば呆れながらも最終的にはお許しと激励のお言葉を送ってくださった桑原聡教授には大変感謝しております。

新潟大学脳研究所は、分子生物学などの基礎的研究を行う教室のみならず、病理や脳神経内科、脳神経外科など臨床に携わる教室も一堂に会する、わが国で最初の脳神経に関する国立大学附属研究所です。これまでに培ったイメージング研究の技術と経験、構築した人的ネットワークを生かして、新潟大学脳研究所内外の先生方と密な連携をとることで、国際的に競争力のある、臨床の患者さんに還元できる研究成果を発信していきたいと思っております。臨床医としては、今後も微力ながら千葉県の医療機関における診療業務にも継続して従事していく予定です。るのほな同窓会の先生方におかれましては、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ご住所・ご勤務先等に変更  
がございましたら当会にも  
ご一報ください。

電話 (043) 202-3750

FAX (043) 202-3753

e-mail : info@inohana.jp

独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO) 船橋中央病院 院長 山口 武 人 (昭56)



本年度、船橋中央病院院長に就任いたしました山口武人です。昨年3月に千葉県がセンター病院長を退職後、前院長の横須賀收先生(現 松戸市病院事業管理者)の下で1年間副院長として、医療安全管理を中心に病院運営に携わりました。船橋中央病院には30年以上前、第一内科の二次出張として1年半勤務いたしましたので大変懐かしい思いと同時に、まさか院長として再び勤務することになるとは思ってもおりませんでした。ご配慮いただきました横須賀先生、千葉大病院消化器内科加藤直也教授には、この場をお借りして御礼申し上げます。また、二次出張当時は大学卒業後8年目でまだまだ経験が浅く、先輩の先生方には大変ご迷惑をおかけしましたこと、お詫び申し上げます。

当院は昭和24年に社会保険病院として開院し、その後診療科数、病床数を増加させ発展してまいりました。平成26年に独立行政法人地域医療機能推進機構 (JCHO) に移行し、現在登録ベッド数399床、18診療科にて、船橋市の地域中核病院として診療を行っております。当院のほとんどの診療科は千葉大学の各医局からの派遣をいただいております。長年にわたり大変お世話になっております。また、初期研修のたすき掛けも行っており、大学とは切っても切れない関係です。今後も大学と連携しながら、関連病院としての役割を担っていききたいと思っております。

数の減少が続いており、医療取支はマイナスとなっております。このような困難な状況ではありますが、当院は感染症指定医療機関、新型コロナウイルス基幹病院として、現在までに延べ400名以上の新型コロナウイルス患者さんを受け入れ、治療してきました。これからも主要な新型コロナウイルス対応医療機関としての役割を果たしてゆくと同時に、高いレベルでの通常診療の維持継続が重要と考えております。

2021年4月1日付けをもちまして千葉県循環器病センターの病院長を拝命致しました。当院は1955年(昭和30年)に設立された千葉県立鶴舞病院を母体として1998年に開設されました。房総半島の中心にある標高100m程の山の上で、夕焼けに浮かぶ富士を遠望できる風光明媚な所にあります。



千葉県循環器病センター 病院長 岡 嶋 良 知 (昭58)

設立当初より鶴舞病院時代からの長い歴史をもつ心・大血管疾患を中心とした診療をさらに発展させることを目標とし、循環器系に加えて神経系疾患に対する高度先進医療に取り組み一方で、内科外科を初めとした中房総地域への地域医療を担ってまいりました。診療の現状としましては心臓・大血管疾患手術、虚血性心疾患へのPCI、不整脈治療、TAVIなどの循環器系の診療や累計二万名の治療実績をもつガンマナイフに加え、昨年度には千葉県におけるてんかん拠点病院の施設認可をいただき、てんかん手術などの専門的なてんかん診療を開始しております。

前年の鶴舞病院は先天性心疾患の手術では国内でも草分けになる施設であり、昭和30年代から当院初代病院長の中村常太郎が牽引して多くの患者の手術を行ってまいりました。小生は千葉大学小児科に所属していたころから、先天性心疾患患者の手術を鶴舞病院にお願いしており、現在、船橋市立医療センターの事業管理者である高原善治先生にも大変にお世話になったことが思い出されます。

着任しておりますが、以前所属した千葉大学医学部附属病院小児科や千葉県こども病院などで乳幼児期に診療し、その後、成長した患者を診療する機会を得ております。幼い頃に診療した患者の社会人となった姿を見ることは、小児科医として大変に感慨深いものです。一方で、成人に至った後も継続した治療を必要としている方々への診療にも配慮しております。

今、医療を取り巻く環境は決して楽なものではありません。人口の高齢化による疾病構造の変化として併存疾患を多く抱えた患者への対応や昨今の大きな問題である新型コロナウイルスのパンデミックなどには病院全体のチーム力を動員する必要があります。人口の高齢化、その後の人口減少局面にある状況においても医療の地域格差が生じることのないように、この地における最後の砦として診療機能を最大限に発揮するために職員一同、心血を注いでまいります。誠に勝手ながら、今後おののちは同窓会の皆様からのご指導、ご鞭撻を賜れば幸いです。

医療従事者向け生命保険・損害保険のご用命は・・・  
千葉大学むのほな同窓会「会員総合補償制度」担当  
PIONEER 株式会社パイオニア  
Tel.0475-23-8442 (営業時間 8:30-18:00)  
【引受保険会社】東京海上日動火災保険株式会社  
https://www.pioneerltd.com/

上都賀総合病院

病院長 安藤 克彦 (群馬大・昭60)



令和3年(2021年)4月より上都賀総合病院の病院長を拝命いたしました。これまで大変お世話になつたのほな同窓会の諸先生方に謹んでご挨拶申し上げます。

私は昭和60年に群馬大学を卒業し、千葉大学医学部第一外科(現臓器制御外科学教室)に入局いたしました。当時は奥井勝二先生(昭28)が教室を主宰されており、卒業後4年目の出張で一年間当院で研修を受けました。当時の副院長宮司勝先生(金沢大・昭42)、同じく外科部長の小池正造先生(昭53)にご指導いただき大きく成長できた時期だったと覚えています。帰局後は肝胆道研究室に所属し、宮崎勝名誉教授(昭50)に直接ご指導いただきました。平成6年(1994年)に千葉市立病院(現千葉市立青葉病院)に赴任し、幅広

く外科領域の診療に携わってきました。同院と大学病院はすぐ近くにあるため、赴任後も宮崎勝先生にはしばしば来院していただき肝切除術の手ほどきを受けることが出来ました。また私が赴任した2年後と3年後に相次いで赴任された更科廣實先生(昭42)、布村正夫先生(昭53)はそれぞれ第一外科学教室では大腸肛門、胃を専門にされていらつ

しやつたため、それぞれの手術について沢山の教えを受けることが出来ました。また当時は腹腔鏡下手術の黎明期でもあり、第一外科学教室出身の先輩には早くから腹腔鏡下手術を始められた先生方も何人かいらつしやいました。そういった先生方をお願いすると快くご指導いただき、同院での立ち上げから発展に力を注ぎました。このように多くの同門の先輩方のおかげで外科医として成長することができました。今回も同門の先輩である十川康弘前院長(昭55)の後を引き継ぐ形で院長職のお話をいただき、当院や地域の方々、そ

してこれまでお世話になつた先生方に対する恩返しに少しでもなればと考えました。

当院は鹿沼市および日光市からなる栃木県西部二次保険医療圏の中心的な公的病院として急性期医療を担っているだけに限らず、県全体の医療体制においても重要な立場を維持しています。私が出張でお世話になつた32年前には、外科、内科、整形外科、泌尿器科などに多くののほな同窓会会員の先生方が在籍され、まさしく病院を支えていました。現在が残念ながら少数派となつてしまいました。ご存じの通り栃木県内には獨協医科大学、自治医科大学という二つの大学病院があり、両大学より多くの医師派遣を受けることで成り立っていますが、慢性的な医師不足を解消できるほどではありません。以前のようにのほな同窓会会員の先生に多く勤務していただければ私も心強いのですが。さて、昨今のコロナ禍では感染患者受け入れの有無にかかわらず、ほとんどの医療機関が影響を受けたのではないかと思います。当院も栃木県内のコロナ対策には初期段階から積極的に関与してまいりました。それ

によつて病院の運営状況は大きく変化してしまい、また今後の予測も非常に困難な状態に陥りました。そんな時に病院の舵取りを引き受けることになってしまい、ただでさえ新米病院長の私には荷が重いとところどころに不安が増幅したというのが正直なところです。この難局を乗り越えるためにも、のほな同窓会会員の諸先生方からは、より一層のご

松戸市立総合医療センター

病院長 尾形 章 (昭60)



指導・ご鞭撻を賜ればと思います。何卒よろしくお願い申し上げます。約30年ぶりに鹿沼で単身生活を始めました。前回出張時に比べれば街は見違えるほど発展し生活も便利になりました。しかし身近にある豊かな自然や人々の温かさはまったく変わっていません。おかげさまで日々癒やされながら生活することができているのが何よりです。

令和3年(2021年)4月、鳥谷博英前病院長の後任として病院長を拝命いたしました。私は昭和60年(1985年)に千葉大学医学部を卒業し当時奥井勝二教授が主催されていた第一外科学に入局いたしました。4年間関連病院に勤務した後、宮崎勝先生がトップであった第5研究室(肝胆道)に入門させていただきました。当時はまだ国内でも肝移植は行われていない

淡路大震災により耐震性に問題があることが判り建て替えが大きな政治問題となりました。長く苦悩の日が続きましたが多くの方の努力もあり平成29年(2017年)12月27日旧病院から1・3km離れた千駄堀の地に移転開院することができ、名称も「松戸市立総合医療センター」と改名することとなりました。

時期で肝切除は安定して行われていましたが、拡大肝切除後の肝不全を防ぐために何か付加的療法はないか求められていました。門脈の動脈化がその一助とならないかと同僚とともに動物実験を行いました。実験の半ばではありましたが、変わった中島伸之教授が後期出張を立ち上げ平成5年(1993年)に松戸市立病院に赴任することになりました。平素は病院の業務をしつつ土日には大学の動物実験棟に通つたのは良き思い出であり、学位を頂くことができました。松戸市立病院はかなりの老朽化が進み、平成7年に起きた阪神

研修医に価値ある研修をしてもらい、千葉大学大学院医学研究院へ入局し将来の高度医療をささえる人材に育ってもらいたいと念願しています。

松戸市立総合医療センターは感染症病床8床と一般病床592床の合計600床でスタートしました。診療機能として救命救急センターを有する災害拠点病院、地域がん診療拠点病院、地域周産期母子医療センター、第2種感染症指定機関等の指定を受けております。小児医療センターは多くの小児専門科を有しPICUを含め80床を有しており、そのほかにNICU、GCUを設けています。

病院長として37科が有り、すべてを紹介できますがほとんどの科はのほな同窓会会員が占め、それぞれの母体である千葉大学大学院医学研究の教室には感謝の念に堪えません。また、当院が臨床研修病院であることから年間に30名を超える初期研修医を雇用し将来ある若き

### 千葉県救急医療センター

病院長 宮田 昭宏 (昭62)



令和3年(2021年)4月1日に千葉県救急医療センターの病院長を拝命いたしました。日頃より大変お世話になっております、

私は昭和62年に千葉大学医学部を卒業後、牧野博安教授および山浦晶教授が主宰する脳神経外科学教室に入局いたしました。大病院で研修を行った後に、千葉県救急医療センターにて勤務する機会をいただきました。国内でも数少ない独立型3次救急医療施設として、県内全域から多くの重症救急患者が集まる医療現場は、駆け出しの医師にとっては衝撃的な光景の連続でした。ここでの経験は自分の将来の方向性を決めるのに十分で、中でも若年者の交通事故については非

常に凄惨な状況を目の当たりにし、「重症頭部外傷の治療」を自身の一つのテーマとする礎となりました。

その後国立千葉病院(現千葉医療センター)や下都賀総合病院(現とちぎメデイカルセンターしもつが)にて研鑽を積み、平成12年に幸いにも再び千葉県救急医療センターに赴任する機会に恵まれました。この時期は重症頭部外傷に対する低温療法が注目されていた時期で、多くの外傷症例に対して試行錯誤を繰り返し、日々頭蓋内圧の数値に一喜一憂していたことが印象深く思い出されます。合併する多発外傷においては、脳神経外科以外の一般外科、整形外科、形成外科、麻酔科、集中治療科等、様々な診療科が初療から協働して関わる特徴的なチーム医療体制が有効に機能しており、今日においても重症外傷の受入れ患者数は全国的にも最も多い施設の一つとして、重症頭部外傷治療の拠点としての役割を果たしています。日本脳神経外傷学会においては日本脳神経外

傷データバンク事業などに関わらせていただき、平成17年4月に脳神経外科部長、平成30年に診療部長を経て、現在に至っております。

当センターも開設から40年余りが経過し、県内の救急医療体制は様変わりしてきました。その中でも多くのリソースを必要とする重症多発外傷や指趾切断、広範囲熱傷、急性中毒などの特殊疾患患者においては、唯一の高度救命救急センターとして、高い専門的な治療を24時間提供できる「頼りになる医療機関」としての役割を今後も維持していきたいと考えております。また心筋梗塞や大血管疾患、脳卒中など治療までの時間が結果を左右する疾患については、近隣の消防隊や近隣医療機関の先生方と緊密な連携をとることに、早い治療介入と成績の向上をめざし、特に虚血性脳卒中に

対しては、次脳卒中センターコア施設(PSCコア)として、さらに夜間も含めて常時血管内治療が可能な施設である血栓回収脳卒中センター(TSC)としての役割も今後予定されており、少しでも皆様のお役に立つことができれば幸いに存じます。

数年後には当センターは千葉県精神科医療センター及び千葉県精神保健福祉センターと合併した新しい病院の竣工が予定されています。

この新病院には県内の大きな災害に対応できる機能が盛り込まれる予定です。多数傷病者を含む局所災害や化学災害・爆発などの都市型災害、さらに今後想定される地震などの自然災害において重要な災害拠点としての機能をはたせるよう設備、機器の整備を行うとともに、多様な実践的災害訓練やDUNNのチーム編成強化と人材の育成などの準備も進めているところで

救急医療全体から見れば当センターの役割はほんの一部にすぎませんが、多くの医療機関の先生方、消防隊と連携させていただくことにより、県内の救急医療に少しでも貢献できますよう、引き続き緊張感をもって取り組んでまいりたいと考えています。のほな同窓会の諸先生方におきましてはこれまで同様、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

### 国保匝瑳市民病院

病院長 大嶋 博一 (平3)



令和2年4月、菊地紀夫前病院長の後任として国保匝瑳市民病院の病院長に就任いたしました。私は平成3年に千葉大学医学部を卒業後、千葉大学第一外科(現臓器制御外科)に入局し、関連病院や医局での研修後、国保国吉病院(現いすみ医療センター)を経て、平成21年より国保匝瑳市民病院に勤務しております。

平成29年より副院長および地域医療連携室長を拝命し、地域での医療連携にかかわってきました。当院は難読地名で東の横綱といわれる千葉県匝瑳(そうさ)市にあります。植木の町として知られており、日蓮宗最古、最大の学問所だった飯高檀林跡はドラマの撮影にもよく使われています。当院は昭和33年に40床の八日市場市国民健康保険直営病院として開設され、その後増改築を重ね、昭和

59年に国保八日市場市立病院に名称を変更し、157床になりました。平成4年から在宅介護支援センターを併設し在宅ケアを開始し、訪問看護ステーション、居宅介護支援事務所、介護老人保健施設を併設し、地域包括ケアをすすめてきました。

平成18年の市町村合併に伴い現在の国保匝瑳市民病院の名称となりました。現在、医療従事者不足のため99床まで許可病床を削減しています。平成23年より国保匝瑳市民病院改革プラン評価及びあり方検討委員会において、施設の老朽化にもない早い時期の建て替えが必要と提言され、平成28年より新改革プラン及び建て替え整備検討委員会にて検討が重ねられ、建て替えの基本構想案と基本計画案が市長に答申されました。しかし、建て替え地についての議論や、医療従事者不足に伴う経営状態の悪化などから、建て替えは凍結の状態になってしまいました。その後、経営改善に取り組み、新

型コロナウイルス感染が拡大し、日々対応に追われている状況です。現在も困難な状況が続いておりますが、千葉大学よりご支援をいただき地域の病院として通常の地域医療を継続しつつ、新型コロナウイルス感染に対し発熱外来、入院病床、ワクチン接種などの対応をおこなっております。小さいですが地域にとってはかけがえのない病院であり、職員一同地域医療を守っていくために懸命に努力しております。のほな同窓会の諸先生方におかれましては、これからも引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



### 松戸市病院事業管理者

横須賀

收 (昭50)



本年4月から、山浦晶先生(元千葉大学医学部附属病院長、元千葉県立保健医療大学長)の後任として、松戸市病院事業管理者に就任させていただきました。私は平成28年に千葉大学消化器内科教授を退任後、本年3月まで、独立行政法人地域医療機能推進機構(ＪＣＨＯ)船橋中央病院の院長を5年間勤めて参りましたが、松戸市のほうに移ることとなりました。これまで大過なく過ごさせていただきました。ありがとうございました。あのはな同窓会、教室同門、船橋中央病院の方々のお陰と深く感謝しております。

松戸市は人口50万人で、江戸川の矢切の渡し近くで東京都に隣接し、国道6号線(水戸街道)が走り、東京や上野とは電車で約20分の距離です。近年、東京外環自動車道ができ、千葉市との交通の便も非常に改善

維持を求められておりますが、市民のために医療レベルを高く保つことが大切と考えております。

また、東松戸地区に位置する松戸市立福祉医療センターは平成5年に松戸市が国立療養所松戸病院の払い下げを受け、福祉医療センター(東松戸病院)として開設した病院です。回復期患者を対象とし、一般病床48床、回復期リハビリ34床、地域包括ケア60床、緩和ケア20床を有し、また50床の介護老人保健施設 梨香苑を併設しています。常勤医師数9人、看護師87人の病院で、木村亮院長(昭57)はじめ半数が千葉大卒の方です。福祉医療センターは約4万㎡の敷地を有し、緑豊かな環境ですが、建物は築50年を過ぎ、耐震性が問題となることから、今後の病院運営の方向性を検討することが、喫緊の課題となっております。

松戸市は人口50万人で、江戸川の矢切の渡し近くで東京都に隣接し、国道6号線(水戸街道)が走り、東京や上野とは電車で約20分の距離です。近年、東京外環自動車道ができ、千葉市との交通の便も非常に改善

方のご協力なしには、当院の運営は成り立たないと思っておりますので、今後ともご指

導のほど宜しくお願い申し上げます。

松戸市は、千葉大学病院からみるとやや遠くに位置していますが、ある意味では、都内の医学部を有する大学と競合する最前線に位置しているとも言えます。是非、千葉大学の各診療科の先生方のご支援をお願い致します。また、あのはな同窓会の先生

## 欧州医学史巡り

### アレキサンダー・フレミング

#### 研究室博物館

杉田克生(昭54)

た科学者の目は称賛されるべきである。パスツールは「幸運は備えある人だけに訪れる」と言っている。

前号(186号)で科学博物館内ウエルカム医学ギャラリーに展示されていたフレミングのペニシリウム・ノーターツム標本を報告させていただいた。今回はそのペニシリン株を発見したセント・メアリー病院のフレミング研究室(現博物館正式名はAlexander Fleming Laboratory Museum)を報告する。博物館の案内板には、ペニシリウム・ノーターツムのコロニーが描かれた標識がある。この博物館は大変狭い小部屋であり、フレミングが培養実験をしていた研究室が当時のままで公開されている。

フレミングは2週間の夏休みの間、ブドウ球菌が過剰増殖しないために培養皿を培養器でなく室温に置いたが、これがペニシリン抗菌作用発見に幸いした。摂氏38度の培養器では発見に

至ったアオカビが増殖できなかったからである。さらに彼が培養シャーレに植え付けたのはブドウ球菌であるが、ペニシリンに抵抗性がある細菌であったら、抗菌作用は発見できなかった。フレミングには多くの偶然が幸いしたが、本質的にはブドウ球菌にあふれた培養シャーレの一部にブドウ球菌が消滅したアオカビ周囲の透明部分を見出し、その抗菌作用を「発見」し

た科学者の目は称賛されるべきである。パスツールは「幸運は備えある人だけに訪れる」と言っている。

研究室内には、フレミングがアオカビの抗菌作用を見出した培養シャーレ標本が残されている。1928年9月、彼が開けたペトリ皿に偶然入ったカビである。広辞苑ではセレンディビティとは「思わぬものを偶然に発見する能力。幸運を招きよせる力」とある。「発見」とは今まで「分かったのに気がつかなかつたことが明示化されること」であり、「これまでの結びつきではない、別の結びつきを見つけること」なのである。同じような透明部分を見出したある日本人研究者は「カビが栄養分をとってしまつたため細菌が増殖できない」と判断し抗菌作用の発見に至ら



写真 フレミングのペニシリン発見を示したプレート(英国 ロンドンセント・メアリー病院内)

### 投稿のご案内

近況報告、随筆(エッセイ)、趣味、現代の医療問題についてなどの内容で奮ってご投稿ください。原稿は1,000字程度で事務局まで！  
あのはな同窓会事務局 e-mail: info@inohana.jp

なかつた。現象を解釈する際、「別の結びつき」に思い及ばなかつたからである。紹介してくれた館員に培養シャーレ標本が当時フレミングの使つたものかどうか聞いたところ、実物だと言っていた。筆者が30年ほど前ロンドン留学中訪問した大英博物館には、フレミングがペニシリンを発見した際の培養シャーレ標本が展示されていた。その後同博物館を何回か訪れても見つけられないでいる。

# 研修プログラム

千葉大学医学部附属病院

泌尿器科

専門研修プログラムについて

千葉大学大学院医学研究科 泌尿器科学

教授 市川 智 彦 (昭59)

東京オリンピックが無観客の開会式で始まり、テレビ画面に映し出される聖火の点灯シーンが世相と重なるように感じました。さて、日本専門医機構による専門研修が開始されてから既に3年が経過し、内科などの診療領域では本年度中に新制度での専門医が誕生します。来年度の専門研修プログラムの募集開始は10月頃になると思いますが、研修医の皆さんの多くは既に心に決めた診療科があると思います。

泌尿器科とはどのような診療科であるか？疾患は小児から高齢者に至るまですべての年齢層が対象となります。外来診療が中心となる内科的診療からロボット支援手術に代表される最先端の技術を駆使する外科診療まで実践することができます。一つの疾患に対して内科的領域から外科的領域まで幅広く関わることで

きることが最大の強みとあります。泌尿器科専門医を取得した後に選択できるサブスペシャリティ領域も内科系から外科系まで多岐に及んでいることもとても魅力的です。私自身は生殖医療専門医と臨床遺伝専門医の認定を受けており、これらの資格を活かして診療活動を行っており、ライフワークを支える基盤になっています。

泌尿器科の専門研修は4年となっており、千葉大学泌尿器科専門研修プログラムではそのうち1年間を大学病院、3年間を2つの基幹病院で研修することになっています。研修終了後9月に専門医試験が行われ、合格すれば10月1日付けで専門医認定を受けることとなります。4年半後の専門医更新の際に要件を満たせば指導医となりますが、この間、腹腔鏡技術認定、ロボット支援手術プロクター

認定、サブスペシャリティ領域専門医取得、大学院で医学博士を取得、海外留学など、選択肢も豊富に用意され、希望すればこれらすべてを完結することもできます。それを可能にするのは、面倒見の良い指導医が在籍し症例数が豊富な関連病院が多数あるからです。さらに、泌尿器科の持つアットホームな雰囲気や研修をより充実したものにしていくと思います。本年度も10名の専攻医が新たに千葉大学のプログラムで専門研修を開始しています。詳細はウェブサイトを紹介していますので興味のある研修医の先生方、医学部の学生の皆さんは是非アクセスしてください。(https://www.n.chiba-u.ac.jp/class/urology/)

若手の皆さんには、限らない可能性が広がります。泌尿器科領域ではライフワークとして取り組むことのできるテーマをいくつも提供することができます。一人一人の価値観と目標を尊重すること、そしてそれらを全力で応援することが、輝ける未来につながるかと確信しています。将来を考えている若手の皆さん、是非私たちと一緒にライフワークを見つけませんか？

## 国保直営総合病院 君津中央病院

院長 海保 隆 (昭57)

当院は千葉県の9つある2次医療圏のうち、君津医療圏にある圏内唯一の公立病院です。構成市としては、木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市の4市で医療圏人口約33万人です。地域でただ一つの3次救急病院、基幹災害拠点病院、地域周産期母子医療センター、地域がん診療拠点病院、地域医療支援病院等、君津医療圏でのいわゆる「最後の砦」の役割を果たしています。近年は東京湾アクアラインのおかげで交通の利便性も増し(羽田空港まで車で30分です)、この人口減少時代にあって、木更津金田地区や袖ヶ浦市など若年者の人口増加地域も見られるようになってきています。

当院の研修医の歴史ですが、古くは千葉大学医学部附属病院各診療科からの出張で賄われ、当院独自の研修システムは持ち合わせていませんでした。さながら千葉大学医学部附属病院の「分院」的な雰囲気でした。平成16年に現在の初期研修医制度が始まるに当たり、大急ぎで研修システムを構築した思いがあります。当初は、本当に当院に研修医が来てくれるのだろうか？との思いから、1学年9名(当院基幹型5名、千葉大との協力型4名)でスタートしました。当院にとつて大変幸いであつたのは、初期研修システムスタートの前年、平成15年の夏に新病院がオープンしたことでした。故丹下健三(都庁や代々木オリンピックプラザを設計した方)設計の建物は、既に築18年経ちますが、今でも威風堂々としています。新病院効果もあり、その後も順調に研修医の皆さんが集まってくれ、少しずつ募集人員を増やし、現在は1学年18名(当院基幹型14名、千葉大との協力型4名)となっています。平成21年に千葉県2機目のドクターヘリ基地病院となつたことも追い風となり、救急医療や外傷に興味のある学生さんも集まるようになりました。病院としては研修医の数をもう少し増やしたいのですが、研修医部



のスペースの問題でこれ以上は難しいのが現状です。当院の研修プログラムの特徴は、多くの診療科があり自由に好きな科を選択できる事です。年度途中でも可能な限り変更を受け付け、柔軟に対応しています。地域医療の研修は、主に富津市にある当院の大佐和分院で行っていますが、5年ほど前より北海道の新ひだか町(旧静内町)にある日高徳洲会病院(旧静仁会静内病院)とも連携を始めました。希望者には北の大地での地域医療を体験しても

らっており、温暖な千葉とはまた別世界で大変人気があります。

当院の研修医の出身大学はその年により変動はありますが、千葉大生半分、その他半分といった所です。千葉大以外の研修医も県内の高校出身者が多いようですが、最近では千葉県とは縁のなかつた学生さんも応募してくるようになりまし

た。当院研修医のマッチング面接をして思うことは、運動部の主将や副主将といった体育会系の幹部の応募が多く、それぞれ部活

をまとめ引つ張ってきたすばらしい人材の多いことです。こういう学生さんが当院プログラムにマッチングすると、次の年、またその次の年と後輩が集まってくれば好循環を生んでいます。

## 研修医だより

### 千葉県の産婦人科医療に貢献

千葉大学医学部附属病院 婦人科・周産期母性科  
 轡 田 早弥香 (平31)



本年度から千葉大学医学部附属病院婦人科・周産期母性科に入局しました。千葉県八街市で生まれ、お茶の水女子大学附属高校を卒業後、千葉大学医学部に入局しました。学生の頃から生命の誕生に関わることで産科に興味があり、地域周産期母子医療センターである千葉市立海浜病院で初期研修を行いました。海浜病院の産婦人科は千葉大学の関連病院であり、千葉大学から来られている先生

当院の初期研修プログラム、専門研修プログラム(内科、外科、救急科、総合診療科、小児科)に興味のある方は、当院ホームページをご覧ください。病院見学も随時受け付けております。

本年度から千葉大学医学部附属病院婦人科・周産期母性科に入局しました。千葉県八街市で生まれ、お茶の水女子大学附属高校を卒業後、千葉大学医学部に入局しました。学生の頃から生命の誕生に関わることで産科に興味があり、地域周産期母子医療センターである千葉市立海浜病院で初期研修を行いました。海浜病院の産婦人科は千葉大学の関連病院であり、千葉大学から来られている先生

卵巣がんで、転移巣を含めできる限りの腫瘍を取り除く「debulking surgery」が行われます。子宮卵巣のみならず、腸や脾臓、膵臓、横隔膜の切除まで行う様はまさに圧巻です。難しい症例が多いですが、カンファレンスでひとつひとつの症例をじっくり検討していくので、日々新たな知識が増え、充実した毎日を送っています。

また、産婦人科は女性医師が多く、妊娠出産を支援する立場であるゆえ、妊娠出産・子育てと仕事の両立に対する理解が進んでいると思います。私自身、初期研修中に出産し、子育てと研修の両立に四苦八苦しておりますが、周りの理解を得て研修を続けることができている。女性医師のキャリア形成と子育ての両立に対する不安は、女子医学生や女性医師の多くが直面する問題だと思えます。男性の育児休業取得推進化が行われている社会の風潮とともに、産婦人科が主体となつて女性医師の働きやすい環境作りに努めて行きたいと思えます。

## タッチパネル

### 顔の記憶

#### 都川流花 (ペンネーム、同窓会員)

東武東上線の池袋駅ホームの突き当りの改札を出て、地下の広場に向かって階段を下りたときだった。「やあ、久しぶりです」斜め後ろから突然呼びとめられた。振り返ると紺の背広を着た男がこやかに立っていた。誰だっただか咄嗟には思い出せなかったが、相手は懐かしさいっぱいという表情で話しかけてきた。

この世に半世紀以上生きてきた方ならお分かりになるだろうが、こういうときに、この人は過去に一回も会ったことがない人だと即座に断言できる人はなかなかいない。男は流れるように話す。最近、競馬を始めましたね。だいぶ儲けさせてもらっています。今日はポケットから厚さ2センチくらいの一万円札の端の方をちよつと引き出して私に見せた。

去年から新橋に移転して

「やー、お久しぶりです。お連れさんですか」と言いながら私の方に寄ってきて、「榊原と申します。よろしく」と丁寧に挨拶した。その男が自分の名前を名乗ったので、こちらも黙ってある訳にもいかなかったが、本名は避けて、「鈴木です」と適当な名前を返した。

名前を変えて名乗ったのに、最初の男は意外そうな顔もせず、今度は私に「鈴木さん」と呼びかけながら話し始めた。初老の男は私の名前を聞き出すためのサクラだ。

あとは私を近くの喫茶店にでも連れ込んで、「必ず儲かる競馬」への出資金を騙し取ろうという魂胆が見えてきた。

タネが見えてしまえばもう興味はない。長居は無用なので、「急ぎますので」と私はその場を離れた。さて、その翌年の年末も近い頃だ。

「やー、久しぶりです」地下鉄丸ノ内線の池袋駅改札を出て、東上線の改札に向かって歩き始めた途端に私が呼び止められた。前回は別人だが男がこやかに立っていた。今度は最初から手の内が見えているから、頭の隅の記憶を掘り返す苦勞はない。ためらいなく私が先手を打った。

「いやー、本当に久しぶりです。相変わらずお元気そうですね。お嬢様の御結婚からもう2年でしょう」男は変な顔をした。こういうときは相手がしゃべり出す前にどんな畳みかけてしまうのが勝ちだ。

「その節は披露宴の招待状を載っていないが何えなかったの、お祝儀だけ送らせていただきます。受け取ってくださいましたか」これ以上はもう言わないほうが良い。相手が次の言葉を探し出す前に私は歩き出した。そのまま東上線のホームに駆け上がって電車で跳び乗った。電車のドアが閉まった。そのときだ。突然言い知れぬ不安が私を包んできた。あの人は本当に面識のない人だったろうか。私が憶えているだけで、もしかして昔どこかで会ったことのある人ではなかったらどうか。

日が経つにつれ私の中にその不安は広がっている。

# 会員から

## 書籍『小象の 元気!で行こう』

発行・寄贈中

NPO法人 小象の会理事長

篠宮 正樹 (昭50)

NPO法人生活習慣病防止に取り組み市民と医療者の会(愛称・小象の会)は、2005年に金塚東・栗林伸一・篠宮正樹の3名を發起人として設立され、市民に正しい医療情報を届ける活動を続けてきました。ラジオ・テレビ、小象メール・ブログ、市民や子ども達に語りかける出前講演・講話や球場での啓発活動。童話『未来マシーンによるこそ』と『はるかなる絆のバトン』を発売(ともに千葉県課題図書に選定)、糖尿病通信を8号まで発行。年2回の小象フォーラム(27回実施)など講演会を主催。この度15周年記念号として最新の生活習慣病対策も記した会報30号を発行。

当会の活動に深い理解を戴いた、元千葉日報社長・萩原博氏(現当会顧問)の提案に応え、市民向けの生活習慣病啓発記事(あのはな同窓会報183号に既報)を、千葉日報紙上で2018年から2年間70回連



書籍『小象の 元気!で行こう』表紙(右)と裏表紙 絵・内田大学先生

載。これを書籍にまとめました。副題は「子どもから高齢者まで身体の不思議を知って生活習慣病を防ぐ70話」。内田大学先生の作成による表紙のかわいいイラストは、小象の会の活動を表現しています。執筆者は31名。内訳は医療者(医

師・歯科医師・薬剤師・臨床検査技師・管理栄養士)24名と非医療者(教員・市民)7名です。分野は内科(生活習慣病・呼吸器・循環器・腎臓)・脳神経外科・精神科・耳鼻咽喉科・皮膚科。横手幸太郎病院長に巻頭言を戴きました。人は病を得ても元気であれば前向きに対応出来ます。それ故「元気!で行こう」であり、さらに生活習慣病解説の前に生命の不思議を強調しました。そして「知るワクチン」知ることが生活習慣病の予防に役立つ

### 雑文雑談

## マックス・ノイバーガーと ウィリアム・オスラー

石出 猛史 (昭52)

欧米人が著した医学の通史で、本邦の明治以前の医学医療について触れているものは余り多くないようである。マックス・ノイバーガー(1866-1955)がその著書『医学の歴史』(二巻)で少し触れている。第一巻は1906年に第二巻は1911年に出版された。第一巻の前半を水上茂樹氏の日本語訳で読むことができる。ノイバーガーはウィーン大学医学部を卒業して数年臨床に携わった後、医学史の研究に従事した。ウィーンにおける医学史研究を推進したプッシュマン教授が著した『医学史ハンドブック』の改訂版を、ベルリンのパール教授と共に執筆している。1917年にウィーン大学の医学史の教授に就任

し、同19年にはウィーンに医学史研究所を、さらに図書館と博物館を設立した。これは第一次世界大戦中のことである。ノイバーガーはユダヤ人であったために、大戦後政

と。県内の医療関連団体役員、千葉大学医学部4年生・県立保健医療大学学生の皆様に寄贈、千葉県教育長を通じて千葉県立高校全157校の校長と養護教諭の先

生へ寄贈し、千葉テレビと千葉日報で報道されました。会員の多大な協力で現在があります。HPを「小象の会」でご検索下さい。

権を獲得したナチスの迫害を受けてイギリスに亡命した。在英中はウェルカム歴史博物館で研究を続けた。戦後の1948年渡米しニューヨーク州のバッファロー大学で教鞭を執った。1955年帰国したウィーンで没した。

ノイバーガーは『医学の歴史』で日本の文化について、「自分自身の文化を作り上げる能力はあまり無いが、外国の文明の要素を同化するのに極めて有能であるので、中国医学の重要な特徴を標準的な著作から迅速に吸収し、それを手本として忠実に再現して数多くの科学文献を書いた」と記している。また「それが故に明治以降ドイツ医学を根付かせ易かった」とも述べている。明治以前の本邦の特徴的な医師として曲直瀬道三・永田徳本・賀川玄悦を挙げている。道三は中国医学の影響を脱した医療を実践した。徳本は人体が持つ自然の治癒力を強調し心身医学的なアプローチを行った。玄悦は産科学の基本技術を確立した。ノイバーガーが参考にした日本の医学の資料については、この翻訳からは判らない。

**Moving Forward**  
**第59回 日本人工臓器学会大会**  
 The 59th Annual Meeting of the Japanese Society for Artificial Organs  
 2021 11.25 [Thu.] ~ 27 [Sat.]  
 会場 ヒルトン東京ベイ  
 大会長 松宮 護郎 (千葉大学医学部 心臓血管外科 教授)

の第一分冊を受け取った時、イギリスとアメリカの学生に特に有用な本であると思つた」と記述しているの、原著ではなく英訳版に寄稿したものであろう。オスラーは医学史の研究とその普及に熱心であった。この序文で「歴史の勉強は過去の事柄を現在のものにするだけでなく、将来に来る事柄について合理的な考えを持たせる」と述べている。この当時オスラーは英国オックスフォード大学の内科学欽定教授を勤めていたが、1912年英国の医学史学会を設立して初代の会長に就任している。

オスラーとノイバーガーの接点はまだ多くなさそうである。米国の著名な神経外科医ハーベイ・タツシンの名著とされる「The Life of William Osler (Oxford出版)」には1ヶ所だけその記述がある。1905年オスラーがドイツに行った折、ウィーンでノイバーガーに数箇所の図書館を案内してもらったことが記されている。

オスラーも名著とされている『近代医学の興隆』(1921)を著している。オスラーが1913年にエール大学で行った講義の記録を医学史研究者がまとめ

たもので、ノイバーガーの著書も引用されている。この本も水上茂樹氏の翻訳で読むことができる。引用文献の1つにY. Fujikawa: Geschichte der Medizin in Japan (Tokyo 1911)が挙げられている。富士川游が1909年に上梓した『日本医学史』のドイツ語訳と推定される。

オスラーは『近代医学の興隆』で「1857年にオランダの医学校が江戸に開かれた」と記しているが、この年に江戸で開設された種痘所を指しているのではある。種痘所は後に幕府に移管されて洋式医学の教育機関となったが、設立当時は私設の種痘実施機関であった。

評伝によるとオスラーは機能性疾患―神経症―にも興味を持っていた。米国では南北戦争中の兵士に多くみられた循環器系の症状を愁訴とする機能性疾患が、ダ・コスタによつて「Irritable heart of the soldiers」としてまとめられている。オスラーの有名な言葉「疾患ではなく人間をみる」は、器質的疾患だけではなく機能性疾患も考慮に入れて診療をしなければという意味のようである。

# 学内情報

## 第19回 亥鼻祭開催のお知らせ

亥鼻祭実行委員会サークル委員長

医学部3年

浅野 祐介  
梅澤 果那

亥鼻祭は、千葉大学亥鼻キャンパスで毎年11月初旬に開催される医療系大学祭で、医学部、薬学部、看護学部の三学部が協同して実施しております。昨年度は新型コロナウイルスの影響がありまして、1ヶ月遅れの12月初旬に完全オンラインで実施させていただきました。亥鼻祭としては初の試みでしたが、オンライン仮想空間を用いたイベントや特設サイトの開設を含め皆様から多くのご好評をいただきました。また、昨年度はオンライン亥鼻祭の開催成功により、学長賞を賜うことができました。これもひとえにOB・OGの皆様方のご支援とご協力のおかげでございます。改めて感謝申し上げます。

今年度亥鼻祭は11月7日の日曜日を予定しております。今年度も、開催できる運びとなりましたら、毎年

行われてきた講演会や受験相談などの伝統企画を受け継いでいくのはもちろんのこと、昨年度よりも皆様に生の亥鼻祭を味わっていただけるような方式で開催し、より活気のある亥鼻祭を作り上げていきたいと思っております。

今年度の亥鼻祭のテーマは「モノがたり」とさせていただきます。1つ(mono)の者・物としての「モノ」が、一つの大きな「物語」を完成させるといった意味が込められています。最高の物語を紡ぐ亥鼻祭にしたいという思いでこのテーマを設定しました。

昨年度、新型コロナウイルスの影響で思うように活動することができなかった部活動・サークルに披露の場を提供し、1・2年生に大学生活の一端を少しでも味わってほしいと思っております。また、各学年の学

年企画や、医療系キャンパスならではの、医療に関する企画を今年も行う予定です。医療系大学祭であるという特徴を生かし、他の大学祭ではできないような企画で医療と向き合い、ご覧になるすべての方々に千葉大学の医療の魅力を少しでも

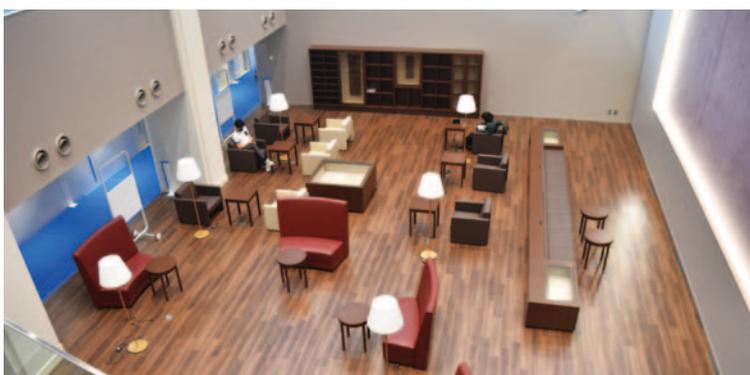
も感じていただける学園祭を目指して運営してまいります。

これまで長きにわたって亥鼻祭が開催できたのも、同窓会の皆様方をはじめ、亥鼻キャンパス周辺地域の皆様や保護者の方々の、ご支援ご協力の賜物でございます。

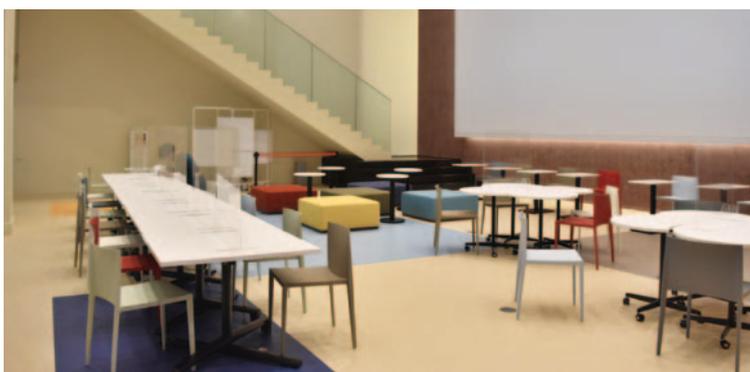
ます。謹んでお礼申し上げます。皆様への感謝の気持ちを忘れず、亥鼻祭当日まで我々委員一丸となつて皆様とともに新しい亥鼻祭を作り上げていければと思います。学生一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

### 医学系総合研究棟のアクティブラーニングスペース

令和3年4月に医学系総合研究棟(治療学研究棟)が竣工しました。医学部棟は84年ぶりに新築されましたが、今回は設計段階から教育・研究の場としての機能性が検討され、将来を見据えた教育環境が特に重視されました。新棟の正面玄関(4階)に入ると、広い吹き抜けから階下(3階)に、その象徴ともいえるアクティブラーニングスペースを見下ろすことができます。



智慧と歴史の部屋



未来と創造の部屋

# 課外活動団体だより

## 千葉大学医学部ヨット部

医学部4年 阿部 哲

ヨット部は3〜8月、10〜12月の土日祝日に稲毛ヨットハーバーと江ノ島ヨットハーバー(東京オリピック、東日本医科学生総合体育大会中止の影響で昨年度、今年度は稲毛ヨットハーバーのみ)で活動をしております。一昨年度閉上ヨットハーバーで東医体悲願の2連覇を成し遂げ、3連覇を目指して全員が一丸となって練習に励んでいた中で、新型コロナウイルスの影響による昨年度の東医体の中止。悔しい気持ちを抱きながらも後輩にたくさんのことを教えてくれた現6年生が引退し、代替わりをして現5年生を中心に目指してきた今年度の東医体の再びの中止は、我々にとって厳しい現実でした。



しかしながらこのような状況は誰に対しても等しく、状況のせいにして諦めず今できることを工夫して取り組み続けられた人はしっかりと前に進んでいる、という励ましを先輩方からいただきました。本会では徳久先生の当時の部活のお話やそのご経験がどのように生かされたか、また私たち後輩がどのように道を決めて行くかについてお話をいただきました。またご出席いただいたOBの先生方からもお話をいただき大変励まされました。改めてこの千葉大学医学部ヨット部は、昨年度ご退任された徳久先生や、顧問の清水栄司先生をはじめ多くのOBの先生方によって支えられてきたこと

千葉大学医学部ゴルフ部は昭和58年に創部された部活で、部員は医学部生のみではありますが、現在46名で活動している大きな団体です。部員の多くは大学からゴルフを始めるため、上級生が責任を持って下級生の指導をしたり、ショートコースでミニゲームをしたりしてお互い上手くなれるよう練習しています。たくさん話を楽しくゴルフをするのを目的としている部員もいれば、スコアを1つでも伸ばし大会で良い成績を残すため純粹に技術の向上を目指す部員もいます。千葉大学医学部ゴルフ部ではこういった様々な価値観を持った部員で構成され、誰もが部活に参加しやすいアットホームな雰囲気の中練習しています。

## 千葉大学医学部ゴルフ部

医学部4年 海邊 拓実



現在新型コロナウイルスの影響で様々な制限の中、練習を行っている状況ですが、未だに感染者数は増加の傾向にあり、これからの部活動にどのような影響が出るのかわからない状況です。医療従事者になる者としての自覚をしっかりと持ち、感染拡大防止対策を遵守しながらどのように部活として前進できるか考え続け、これからも精進して参りたいと思います。

大会前などは多くの部員がたくさん自主練習をしたり、大会の行われるコースで練習ラウンドをしたりと一生懸命頑張ります。また、毎年2年生が出場するコメディカル戦(5月、千葉大学主催)、新人戦(6月)に向けても部全体で盛り上げて行きます。

これら以外にも部員で行く部旅行や「亥鼻杯」と呼ばれる部内コンペ、ゴルフ部のOBの先生方とコースで一緒に練習していただく「OBコンペ」など、どの部員にとっても素晴らしい思い出となる行事がたくさんあるのですが、昨年度、そして今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響によりそのほとんどが中止となってしまいました。それだけではなく、昨年度は練習すら満足にできない期間も続きました。しかしながら、大会で頑張った良いスコアを残すことだけがゴルフの面白さではありません。今は感染対策を守りつつ、今

は昭と58年に創部された部活で、部員は医学部生のみではありますが、現在46名で活動している大きな団体です。部員の多くは大学からゴルフを始めるため、上級生が責任を持って下級生の指導をしたり、ショートコースでミニゲームをしたりしてお互い上手くなれるよう練習しています。たくさん話を楽しくゴルフをするのを目的としている部員もいれば、スコアを1つでも伸ばし大会で良い成績を残すため純粹に技術の向上を目指す部員もいます。千葉大学医学部ゴルフ部ではこういった様々な価値観を持った部員で構成され、誰もが部活に参加しやすいアットホームな雰囲気の中練習しています。

まで一緒に回ったことのない  
 かつた部員同士でコースに  
 出たり、一緒に練習したり  
 することでお互いの気持ち  
 を共有し親睦を深めていま  
 す。これもスポーツとして  
 のゴルフ、そしてこの部活  
 の魅力の1つだと私たち部  
 員は考えています。またい  
 つか大会等のイベントが開  
 催可能になることを祈りつ  
 つ、それまではゴルフの本  
 質的な面白さや楽しさ、そ  
 してもちろん技術の向上を  
 追求していききたいと思っ  
 ています。

最後になりますが、私た



### 相馬光弘先生からの

### 硬式庭球部へのご寄付

亥鼻硬式庭球部 部長

岩 立 康 男 (昭58)

この度、昭和47年卒業の  
 相馬光弘先生から亥鼻硬式  
 庭球部に500万円のご寄  
 附をいただきました。千葉  
 大学全体で合わせて2,2  
 00万円という高額のご寄  
 附です。この場を借りまし  
 て心より御礼申し上げます  
 とともに、みのはな同窓会  
 会員の皆様にご報告申し上  
 げます。

相馬先生は、新型コロナ  
 ウイルスによって練習の機

ち千葉大学医学部ゴルフ部  
 はOB・OGの先生方のお  
 かげでとても充実した活動  
 ができております。この場  
 をお借りしてお礼申し上げ  
 ます。今後も感謝の気持ち  
 とともに部員一丸となって  
 千葉大学医学部ゴルフ部を  
 盛り上げていきたいと思っ  
 ております。引き続きご支  
 援とご協力の程宜しくお願  
 い致します。

**役員名**  
 主将：海邊 拓実  
 主務：金子紗也佳  
 会計：米岡遼太郎

した。相馬先生の温かいお  
 人柄に敬意を表したいと思  
 います。

相馬先生は昭和47年に千  
 葉大学医学部を卒業され  
 て、第2外科に入局され  
 その後千葉県立佐原病院で  
 活躍されました。現在はご  
 出身地である佐久で相馬北  
 医院を開業されております。  
 テニス部での6年間は、多  
 くの先輩、同輩、後輩に囲  
 まれて充実した日々を過ご  
 されました。テニスで戦った  
 相手と何年ものから再開  
 し、親しい友人になったこと、  
 また最近では、テニス部時  
 代の先輩や仲間を失った悲  
 しみなどもあったようです。

ご寄附の使  
 い道につきま  
 しては、現役  
 部員はもと  
 より、大学の  
 関係の皆様、  
 クラブOBの  
 方々とも議論  
 を重ね、亥鼻  
 地区学務課  
 のご支援も受  
 けて、夜間練  
 習用の照明器  
 具を設置させ  
 ていただきました。  
 これま  
 では高いお金  
 を払って近隣



新たに整備されたテニスコートの夜間練習用照明

の照明付きテニスコートを  
 借りてレギュラー練などを  
 行っていました。これか  
 らは思う存分練習に励むこ  
 とができます。テニスを通  
 じて人と人との和も、ます  
 ます大きくそして強くなっ  
 ていくことでしょう。

相馬先生には、新型コロナ  
 ナの影響から立ち直りつつ  
 ある部員たちが、新医学部  
 棟の駐車場奥に新たに整備  
 されたテニスコートで、笑  
 顔をはじけさせながら汗を  
 流す姿をぜひ一度見に来て  
 いただきたいと願っており  
 ます。本当にありがとうございます。

## 千葉県みのはな会

令和3年3月 第21号

千葉県みのはな会誌

特集 新型コロナウイルス感染症

Vol. 21 No. 1 2021年(令和3年)3月号

目次		表紙題字：野出源四郎氏	
巻頭語	秋葉 哲生 (S.50)	1	
通信	野友山江公彦副部長の死を悼む	浅野 尚 (S.38)	2
Essay	昭和35年の千葉大学医学部附属病院敷地方案	船尾 勉 (S.60)	6
	若手基礎研究者のリレーエッセイ	北本 匠 (H.20)	8
特集「新型コロナウイルス感染症」			
	新型コロナウイルス感染症と千葉大学病院の取り組み	藤野 美穂 (S.63)	14
	コロナ時代の入院生活—高齢者の心理と希望—	三枝 一雄 (S.32)	17
	新型コロナウイルスの人形への脱獄	浅野 尚 (S.38)	19
	コロナ禍での支部総会開催への試み	西田 哲男 (S.47)	20
	ポストコロナ時代の医学教育	徳久 順史 (S.48)	22
	新型コロナウイルス感染症(コロナ)と第3回	中村 義人 (S.54)	23
	感染症特別検査室(新型コロナウイルス感染症)の立ち上げと運用	伴 俊明 (S.58)	23
	千葉大学の2020年—新型コロナウイルス感染症パンデミックのキャンパス—	酒岡 皓子 (H.4)	24
	コロナ禍での風評被害「インフルエンザ」に振りまわれた話	高橋 宏和 (H.11)	27
	どんな自分でありたいですか？—コロナ時代の日常診療におけるコーピングの関わり—	松澤 陽子 (H.12)	28
	千葉県新型コロナウィルス感染症対策本部から見た事	吉村 隆浩 (H.19)	31
報告			
	梅田晴則	三枝かずを (S.32)	33
	菊の葉	神田たかし (S.33)	33
報告			
	第18回千葉大学卒業生同窓会二報告	朝倉清太郎 (医学部3年)・柳田 崇月 (医学部3年)	34
	2020年度 千葉県みのはな会年会費納入いただいた方		36
	2019年度千葉県みのはな会事業報告・会計報告		40
	千葉県みのはな会会則		43
	編集後記		44
	投稿規定		45

表紙 「トビの巣」 昭和56年11月 山口 幸雄 (S.38)

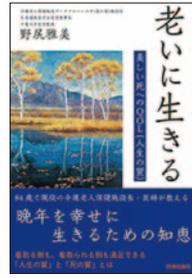
# 同窓会員著書の紹介

野尻雅美 (昭36) 著

## 老いに生きる

### 美しい死へのQOL (人生の質)

青春出版社 定価 1200円 (税別)  
紹介者 磯辺 啓二郎 (昭52)



本書は、現在の新型コロナウィルスによるパンデミックを「現代の高度科学文明社会への大自然からの逆襲」と捉え、高齢者は、ポストコロナ時代に、その過ちから抜け出し、新たなQOLの構築の必要性を説かれており、時宜を得たいへん意味深長な内容となっています。

また、健康医学者としての著者のQOL座標理論にさらに哲学的視点から、大乘仏教の唯識思想での「阿頼耶識」の認識作用による「無」・「空」の考え方や鈴木大拙の「日本の霊性」にまで言及されており圧巻です。西欧の思想家・哲学者などの「脱自」・「無我」の

実存主義的考え方にも通じる宇宙論的発想かと存じます。すなわち、宇宙物理学的にも、「宇宙の誕生」は「無」からで、質量もなく時間的・空間的に無で、存在するのは「エネルギーとしてのゆらぎ」のみとされています。そして、いよいよQOLを高めるための生き方を具体的に示唆しているのが本書ではないかと思えます。

また、何よりも感動しましたのは、著者が古希の頃に新たに介護老人保健施設の施設長・医師として単身赴任し、すでに15年間が経過しているということと、その歩みこそがQOL座標の「生活機能軸」と「生活幸せ軸」が一体となり、周期的な絶対時間を超越して、アインシュタインのいうテンポの遅い相対時間の中で暮らしてであり、浦島太郎伝説にある竜宮城での3日間の至福のひと時では

なかつたかと感じています。浦島太郎の竜宮城での生活は絶対時間としては300年であり、陸に戻り玉手箱を開けて老人となったとのことですが、その後直ちに著者のいう「ひとり死」「満足死」に至ったのではないかと推察しています。今後、玉手箱を開けるタイミングが重要になると考えます。

著者の地に足のついた確実な歩みから生まれた種々の発想は、宇宙の誕生から太陽系、地球の歴史上の一齣を画す人類の生きる意義と生き方を標すものとなり、長寿社会を生きる一人ひとりに至福のひとときを感じさせてくれるものとなっています。

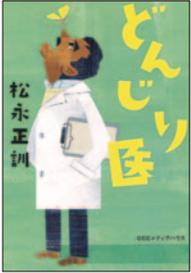
最後に本書は、現在MHOで熱い議論を継続している、健康の定義におけるspiritual well-beingについて理解を深める意味でもおすすめの一冊です。

松永正訓 (昭62) 著

## どんじり医

### CCCメディアハウス

定価 1400円 (税別)



本書は私にとって12作目の作品です。そして初のエッセイでもあります。ある日、CCCメディアハウスの女性編集者からメールが来ました。彼女は以前に講談社の書評欄を担当しており、私は一度書評を依頼されています。今から5年くらい前だと思います。

その頃、その女性編集者を含めて、講談社の雑誌『フライデー』の編集長を交えて何人かでお酒を飲んだことがあります。彼女との接点はそれっきりでした。ところが、彼女は私の書籍のファンで、これまでに何冊も本を読んでくれたそうです。そして現在、彼女はCCCメディアハウスで編集の仕事をしており、何冊かエッセイを作ってそれがかなりのヒットになっているのでした。で、私にも「書いてみませんか」と

お誘いがきたわけです。私の書く本は暗いものが多く(笑)、読んでいて楽しいエッセイは書けるかどうか自信がありませんでした。本を書く上で、最も難しいのは読者を笑わせることです(反対に簡単なのは泣かせること)。ですから、クスッと笑ってもらえるようなエッセイに挑戦したくなりました。テーマは青春記。どんじりの医学生、アホな研修医だった私が、国際学会にデビューするまで

を書こうと決めました。北杜夫もなだいなだも渡辺淳一も久坂部羊も青春記を書いていますが、私はは次元が違います。暗い話にならないように、ユーモアを込めようと構想を練りました。編集部の彼女からは6万字で書いてくれとの要望です。6万字とはかなり少ない。せめて10万字は書いた(400字詰原稿用紙で250枚)。しかし編集部としてはサラッと読めるエッセイが欲しいようでした。原稿を書き始めるとどんどん筆が進みます。編集部も私の原稿をおもしろ

がってくれて、少し加筆を求められました。結果、7万字になりました。本の装丁は業界では超有名な鈴木成一デザイン室です。同時にタイトルも『どんじり医』という極めてシンプルなものに決まりました。私はこのタイトルが大変気に入っています。もう退官なさった千葉大病院の教授先生たちも登場します。自分で言うのも恥ずかしいですが、おもしろい作品に仕上がったと思います。ぜひ、お読みになってください。



第25回日本外科病理学会学術集会  
The Japan Academy of Surgical Pathology

外科と病理の新たな夜明け  
A New Horizon for Surgical Pathology

会期 2021年10月14日(木)・15日(金)  
会場 ペリエホール (JR千葉駅直結 ペリエ千葉7階)  
〒260-0031 千葉県千葉市中央区新千葉1丁目1番1号  
会長 大塚 将之  
千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学

事務局 千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学  
〒260-0856 千葉県千葉市中央区安曇1-8-1  
TEL: 043-226-2269 FAX: 043-222-5241

運営事務局 株式会社 学会サービス  
〒150-0032 東京都渋谷区豊谷町7-3-101  
TEL: 03-3496-6950 FAX: 03-3496-2150  
E-mail: jasp25@gakkai.co.jp

学術集会HP: <http://www.gakkai.co.jp/jasp25/>

千葉医学97巻3号 2021年6月

症 例

洞不全症候群の重症心身障害児に対するシロスタゾール投与の経験

松井拓也 安川久美 本田隆文 濱田洋通 高梨潤一

学 会

第1426回千葉医学会例会・令和2年度内分泌代謝・血液・老年内科学例会

第1434回千葉医学会例会・第38回千葉精神科集談会

編集後記

清水栄司

編集方針ならびに投稿規定

Chiba Medical Journal

Original Short Communication

Relationship between traction force of the flexor tendon and flexion

force of the finger output based on the Jamar dynamometer

Atsuro Yamazaki, Yusuke Matsuura, Kazuki Kuniyoshi, Takane Suzuki

Tomoyo Akasaka, Ei Ozone, Yoshiyuki Matsuyama, Michiaki Mukai

Takahiro Yamazaki, Takeru Ohara, Takahisa Sasho, and Seiji Ohtori

Editorial Policy and Instructions for Authors

おくやみ

- 大藤 敬美 (日本大歯・昭20)
- 平川 勇 (昭21)
- 佐藤 希志雄 (昭23)
- 樋口 豊 (昭24)
- 井上 理 (昭24)
- 松岡 伊津夫 (専24)
- 齊藤 博 (昭和医大・昭29)
- 田中 茂男 (東大医・昭29)
- 仙波 恒雄 (昭32)
- 並木 徳重郎 (昭33)
- 吉田 貞利 (昭33)
- 鈴木 茂 (昭35)
- 徳江 幾郎 (昭35)
- 五島 茂之 (昭56)
- 萩谷 雅人 (昭59)
- 阿部 秀樹 (平13)
- 内藤 潤 (平28)

当会報187号ではその巻頭で同窓会新会長の吉原俊雄先生から、新役員体制と今後の取り組みを記していただきました。その中で会員間の意見交換を密にし、同窓会を身近なものにしていく方針が記されていきました。当会報が情報意見交換の場としてさらに紙面を充実させて、会員の皆様のお役に立てればと思います。

さて新型コロナウイルス感染症のパンデミックは人の命を助けることを最優先にしている我々医療者にとって、とても厄介な存在です。感染症数、重症者数、死亡者数等の暗いニュースが毎日聞こえて来る中、母校千葉大学医学部附属病院での横手幸太郎

編集後記

第96回千葉医学会学術大会  
ご講演動画公開のお知らせ

去る令和3年6月8日(火)に千葉大学るのほな記念講堂で開催されました、下記講演会の動画がるのほな同窓会ホームページ「YouTube会報\*」において公開されております。是非ご覧ください。 \* <https://inohana.jp/hq/?p=4950>



病院長、猪狩英俊診療教授をはじめとする感染制御部チームのコロナウイルス対策はとても素晴らしいと報道されています。その他コロナ病棟において呼吸器内科と感染症内科等の多数の部署から集まった精鋭メンバーが頑張っていることや、人工呼吸器やエクモを駆使する世界トップレベルのICUチームが数多くの重症患者を救命していること、コロナワクチンセンターでの抗体検査成績、コロナウイルス感染と免疫についての臨床研究を進めていること等、エビデンス等のマスコミで取り上げられた内容をあげれば足りないくらいです。特に8月下旬には行き場の難しいコロナウイルス感染妊婦さんを千葉大学医

学部附属病院が積極的に受け入れることを表明したことは、全国紙の紙面を飾りました。同窓の一人として、千葉県内の地域医療の現場でコロナウイルス感染症と戦う一人の内科医師として、母校の臨床ニーズに立脚した診療姿勢、研究マイナード、世の中へのアウトプット力、千葉県全体の司令塔としての存在は大変頼もしく誇りに思えます。新医学部棟が完成しさらに発展していく母校の活躍と、当同窓会の皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

加藤佳瑞紀(平4)

187号編集委員

- 三木 隆司(昭63) 編集委員長
  - 青木 謹(昭36) 鈴木 信夫(昭47) 横須賀 収(昭50)
  - 高橋 和久(昭51) 織田 成人(昭53) 杉田 克生(昭54)
  - 巽 浩一郎(昭54) 廣島 健三(昭54) 瀧口 正樹(昭56)
  - 白澤 浩(昭57) 幡野 雅彦(昭57) 桑原 聡(昭59)
  - 松原 久裕(昭59) 松宮 護郎(大阪大・昭61)
  - 松江 弘之(昭62) 吉野 一郎(九州大・昭62)
  - 横手幸太郎(昭63) 清水 栄司(平2) 加藤佳瑞紀(平4)
- (敬称略)